

コロンビア共和国  
シモン・ボリバル公園造成計画  
事前調査報告書

昭和55年7月

国際協力事業団



コロンビア共和国  
シモン・ボリバル公園造成計画  
事前調査報告書

JICA LIBRARY



1031838[4]

昭和55年7月

国際協力事業団

開 調

C R(3)

80-127

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3 30	705
登録No. 02322	85.9
	SDF

## 序

現政権のトルバイ大統領は、就任早々国会に大コロンビア解放の士“シモン・ボリバル”生誕 200 周年を記念する事業法案を提出した。その目玉事業がボゴタ市の中心部に造成整備する記念公園である。

コロンビア共和国政府は当初これをコマーシャルベースで世界的に有名な建築家グループに計画設計を委ねようとしたが、資金・実施体制などがこれを許さず、1979年7月我が国に技術協力としてこれを要請してきたものである。

シモン・ボリバル記念公園はボゴタ市の El Salitre 地区に緑地、レクリエーション、スポーツ、教育文化等の場として約 350 ha を対象とし、そのうち約 110 ha がわが国のマスタープラン作成を期待されているものである。この公園ができあがれば、おそらくラテンアメリカ第一の都市公園緑地になるであろうといわれており、わが国の技術協力でもこのような大規模な都市公園プロジェクトは初めてなので、各方面からの注目を集めている。

当事業団は、1980年6月11日から26日までの16日間、千葉大学園芸学部助教授丸田頼一氏を団長とする5名からなる事前調査団を派遣し、要請の背景・内容、対象地区の現況などを確認し、本調査の Scope of work を協議するための事前調査を行なった。この報告書はその調査結果をとりまとめたものであり、これを参考にしてすみやかに本格調査が実施されることを期待するものであります。

最後に、この調査にご協力いただいた外務省、建設省、在外公館の関係者各位に厚く御礼申し上げます。

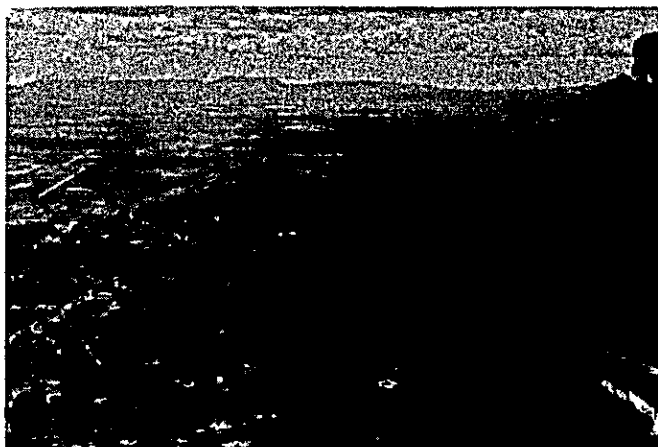
1980年7月

国際協力事業団

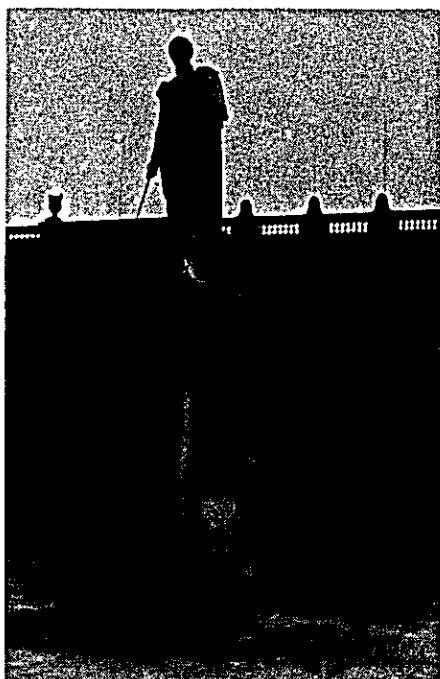
理事長 尾 満



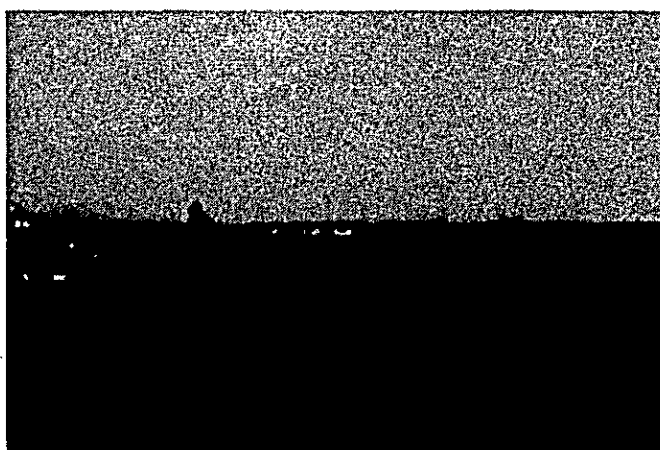
現況写真



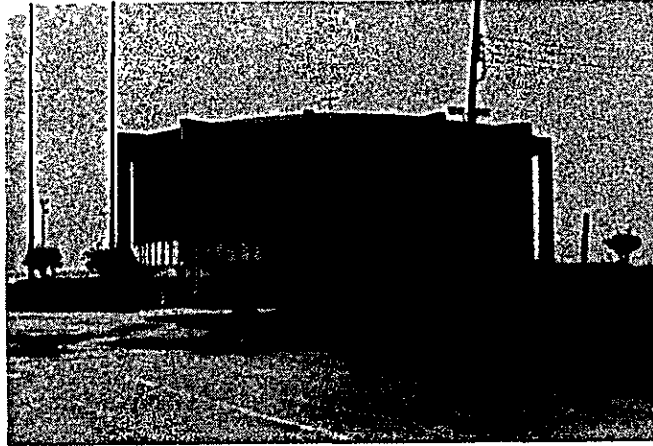
Bogota市 パノラマ① 中央右上 Simon Bolivar 公園予定地



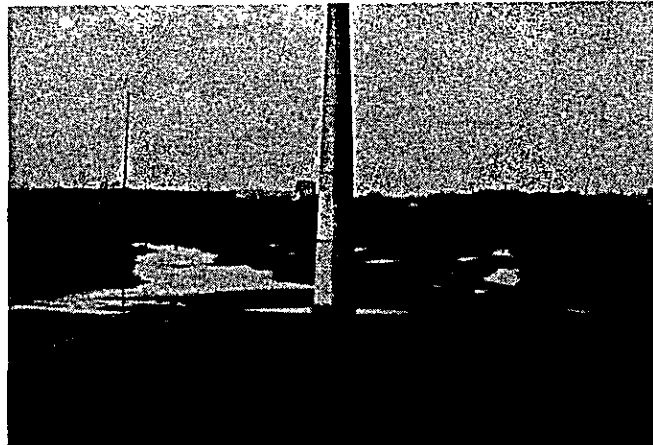
Plaza de Bolívar, Bogota



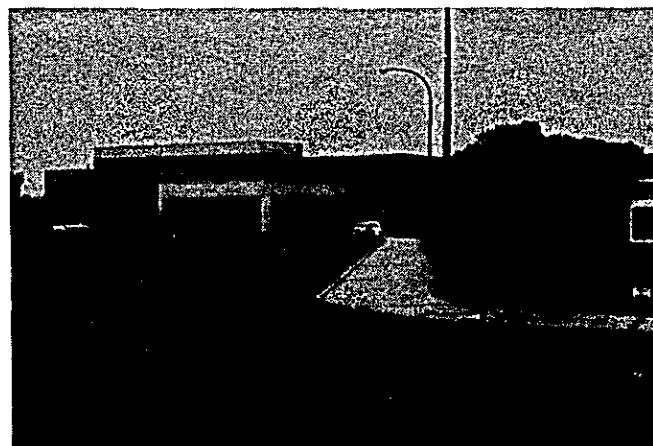
Simon Bolivar 公園予定地



Simon Bolivar 公園予定地内の教会（西側から）



Simon Bolivar 公園内教会から東側を望む

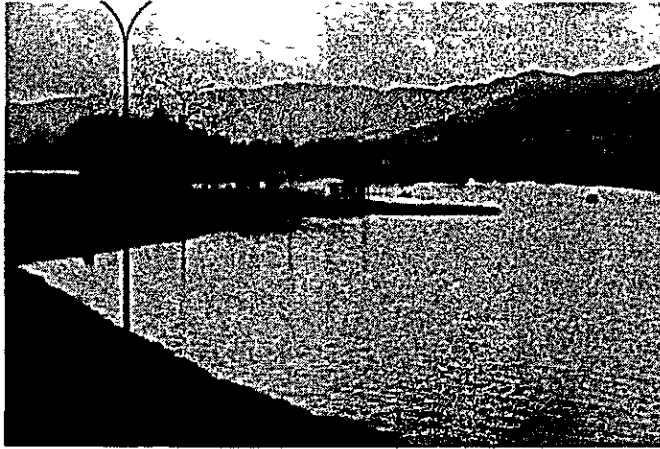


Club de Empleados Oficiales, Bogota.

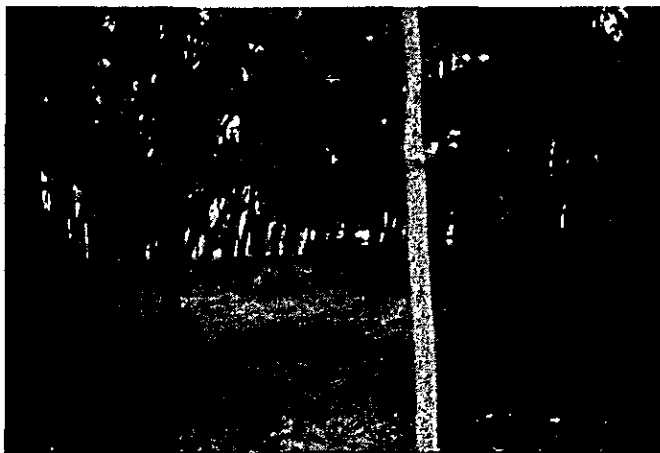




Club de Empleados Oficiales, Bogota  
室内プール



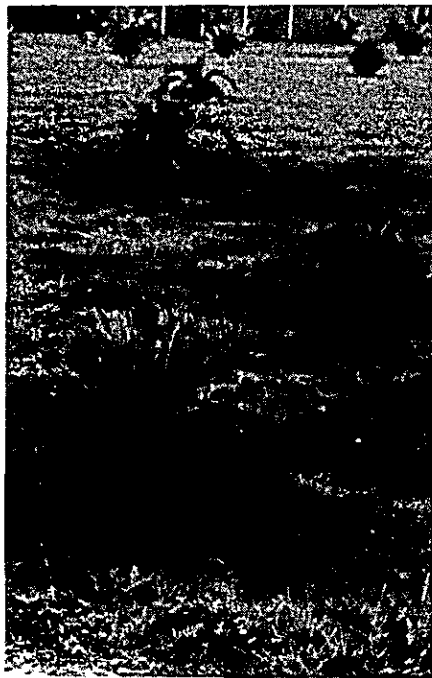
Parque El Lago o de Los Novios



Jardin Botanico Bogota  
古い森の林床，土地が悪いので木が傾いてくる



Parque de la Florida 苗圃 セドル?  
(Bogota)

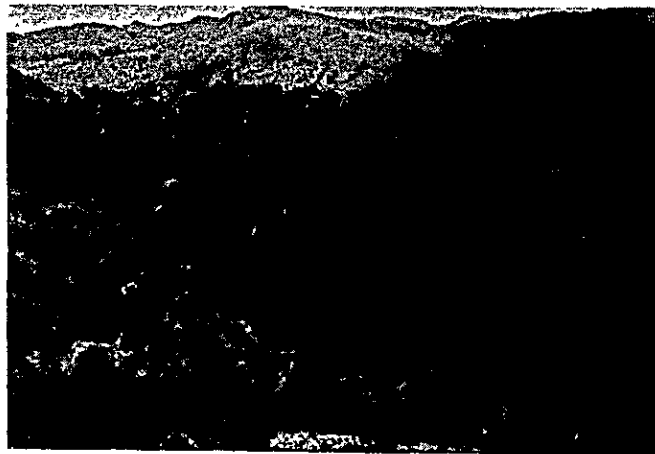


国の木

*Ceroxylon quindiuense*  
(Palmeaceae)の苗木

50m 位になる

Jardin Botanico Bogota

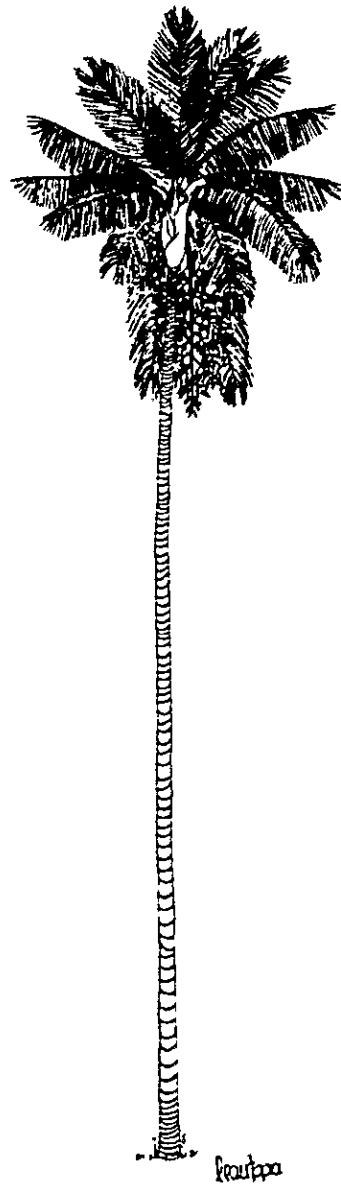


ユーカリの高木林

ボゴタ市 Monserrate より

(IV)

図の木



*Ceroxylon quindiuense* (Palma de cera)



# 目 次

序

現況写真

I	調査団の編成等	1
1-1	調査の目的	1
1-2	調査団の構成	1
1-3	調査日程	1
II	調査団の提言および勧告	3
III	調査結果	5
3-1	ボゴタ市の概況	5
3-2	ボゴタ市の公園緑地の現況	13
3-3	シモン・ボリバール記念公園の意義	15
3-4	計画対象地区及び周辺の現況	16
IV	協議の概要	22
4-1	要請の背景と概要	22
4-2	コロンビア政府関係者の意向	24
4-3	合意の内容	26
V	本格調査の実施について	28
5-1	本格調査実施方針案	28
5-2	実施に当たっての留意事項	30
付		
付-1	合意済 Scope of Work (英文)	33
付-2	Terms of Reference (西文)	40
付-3	The Findings of Survey (英文)	56
付-4	Ley No 31 De 1971 (西文)	65
付-5	収集資料リスト	67



# I 調査団の編成等

## 1-1 調査の目的

コロンビア共和国政府の要請に基づき、同国解放の士“シモン・ボリバル”の生誕200周年を記念して首都ボゴタに公園を造成整備する計画につき、要請の背景・内容、対象地域の現況などを確認し、本格調査の scope of work を協議するために事前調査を行なった。

## 1-2 調査団の構成

事前調査団の構成は次のとおり。

団 長（総括兼施設計画）	丸 田 頼 一	千葉大学園芸学部助教授
団 員（建築計画）	横 山 浩	建設省建築研究所都市計画研究室長
”（公園計画）	五十嵐 誠	建設省都市局公園緑地課々長補佐
”（造園計画）	富 田 祐 次	地域振興整備公団都市整備計画部企画調整課々長代理
”（業務調整）	笠 井 利 之	国際協力事業団社会開発協力部開発調査第一課

## 1-3 調査日程

日順	昭和55年	
1	6月11日(水)	東京発 (メキシコシティ経由)
2	12日(木)	ボゴタ着
3	13日(金)	対象地区踏査、市内視察
4	14日(土)	大使公邸表敬・打合せ
5	15日(日)	市内視察
6	16日(月)	(午前) 公共事業運輸省(MOPT)の国家不動産局(Inmuebles Nacionales) 訪問。大統領補佐官Dr Jose Fajardo らと打合せ (午後) 打合せ継続 公共事業大臣表敬(伊藤大使同席)
7	17日(火)	(午前) 不動産局で資料等に関する打合せ (午後) 大使館で打合せ
8	18日(水)	(午前) ボゴタ市都市計画課長によるボゴタ市概要説明 (午後) 現地踏査(市植物園, La Florida 公園)

9	19日(木)	(午前) 不動産局, 統計局 (DANE), 国土地理院 (IGAC) などで資料収集 (午後) 現地踏査 (El Independencia, El Nacional, Club de Empleados, El Salitre など)
10	20日(金)	(午前) 不動産局で scope of work (S/W) 協議 国家企画庁 (DNP) 国際協力援助窓口関係者を表敬 (午後) 現地踏査 (El Tunal, El Timiza) S/W 準備
11	21日(土)	調査結果とりまとめ
12	22日(日)	調査結果とりまとめ
13	23日(月)	(午前) 不動産局で S/W 合意。調査結果に基づく意見交換 (午後) 大使館へ最終報告
14	24日(火)	ボゴタ発 (ニューヨーク経由)
15	25日(水)	
16	26日(木)	東京着



## II 調査団の提言および勧告

事前調査団の現地調査の結果、得られた提言および勧告を要約してみると、以下の通りになる。

### 1 背景に関する基本的事項

- 1-1. 本プロジェクトは、シモン・ボリバル(Liberator Simon Bolivar) 生誕200年、且つ死後150年の記念事業の一環として、推進されるべき、コロンビア政府の重要課題である。そのため、政府は現代の秀れた技術と芸術とを加味させた、ラテンアメリカにおいて卓越した、シモン・ボリバル記念公園づくりを目指している。
- 1-2. その根拠法として、「シモン・ボリバル生誕200年・死後150年記念法」(1979年法律第31号)があり、その中の記念事業の一つとして本記念公園計画が位置づけられている。なお、本年12月17日は死後150年の記念日にあたるため、本公園のマスタープランとの関連性において、記念式典が行われることになる。
- 1-3. 日本側の担当する本プロジェクト計画地は、後述されている約110haの区域であるが、その周辺約250haの区域をも含めて、記念公園化されることになる。
- 1-4. 計画地はボゴタ大都市発展形成にあつて、都市構造上、重要な位置を占めており、マスタープラン策定にあたっては、市の整備計画に沿うとともに、周辺地域と調和のとれた計画とする必要がある。したがって、市当局と連絡調整を密にする必要がある。

### 2 マスタープラン策定に伴う基本的事項

#### 2-1. 性 格

- (1) シモン・ボリバルを記念するとともに、首都ボゴタ市の中央公園としてふさわしい、全市民が四季を通じて利用可能な公園計画とする。
- (2) 約110haの区域のみでなく、周辺の既存の公園等を含めて、全域が一体的な公園として機能し得るよう考慮する。
- (3) 市民全階層のレクリエーション、文化活動およびスポーツの場となるよう公園計画を行う。

#### 2-2 施 設

- (1) コロンビア政府公共事業省不動産局がとりまとめた、シモン・ボリバル公園に関する報告書に盛り込まれている各種要望施設を参考としつつ、シモン・ボリバル公園としてふさわしい公園施設を導入するよう検討する。
- (2) 計画地にある教会は、国際カトリック会議の記念建造物であり、公園施設として適正に位置づけ、その位置において保存、修復等の検討を行う。
- (3) 施設の選定、構造、配置等の計画にあたっては、敷地の地盤調査の結果を充分反映させると

ともに、周辺の土地利用の現況や計画を勘案し、周辺と調和のとれるよう配慮する。

- (4) コロンビア政府において既に準備を進めている、シモン・ボリバルの記念碑の配置にあたっては、公園計画と調和のとれるよう配慮する。

#### 2-3. 動線

- (1) 本公園に対するアプローチは、ボゴタ市の将来の交通計画を考慮して、全市民が利用し易いよう適正に計画する。
- (2) 本公園の動線計画にあたっては、周辺区域をも含めつつ、一体的に検討することが必要である。この場合、必要に応じて、周辺の道路、公園施設の一部の改良等をも考慮する。

#### 2-4. 植栽、修景

- (1) ボゴタの風土に適合した、適正な植栽、修景を行う。
- (2) 植栽計画の策定にあたっては、計画地の土壌等を調査するとともに、隣接する植物園における樹木の成育状況、研究成果等を考慮する。また、植物園やボゴタ市周辺の各種苗圃の樹種、本数等の供給状況を調査し、本公園の植栽に支障のないよう配慮する。

#### 2-5. 管理運営

- (1) 公園施設の計画にあたっては、将来の維持管理体制を考慮するものとし、必要に応じて有料制等、公園利用者の維持管理費の一部負担についても検討が必要である。
- (2) 全市民が快適なレクリエーション活動を行えるよう、公園施設の保全、公園内での治安維持等に万全な体制が必要であり、管理者にあっては、管理体制の強化、財政上の負担等が要求されることになる。

### 3. 本格調査とコロンビア政府の調査との協調

本格調査にあたっては、コロンビア政府が行う周辺地域の整備計画調査と十分協調を図りつつ行うこととし、その作業の過程にあたっては、両国間の技術協力の推進を図ることが特に望まれる。

### III 調査結果

#### 3-1 ボゴタ BOGOTA 市の概況

##### 1. ボゴタ市の現況

コロンビア共和国の首都ボゴタはアンデス山脈中の高原盆地、標高約 2,600 m の高地に位置する高原都市である。低緯度にありながらも高地であるため気温は低く、年平均 14.5℃、気候温暖で四季の変化が少い。

ボゴタの市街地が展開している平地部はサバナ Sabana と呼ばれる肥沃な土地であるが、ここはかつては巨大な湖水であり、土砂が堆積して現在の平地が出来たという。このため丘陵地周辺以外は地盤条件が悪い。

ボゴタはクンディナマルカ州 Cundinamarca の主都でもあるが、自治体としては特別市として位置づけられ、市長は大統領から任命される。特別市は 18 の行政区よりなり面積は 1,587 KM<sup>2</sup>である。

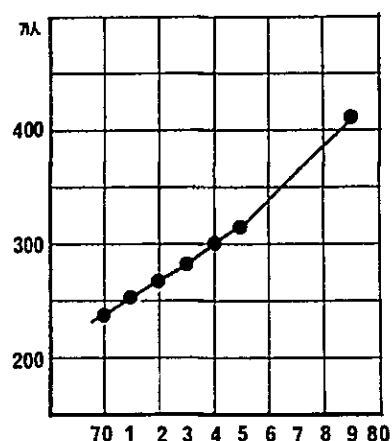
##### (1) 人口

首都ボゴタの人口は 1979 年に 413 万人であり、年々急激な勢で増加を続けている。人口増の最大の原因はクンディナマルカ、ボヤカ Boyaca、トリマ Tolima といった周辺州の農業地域や小都市から職を求めてボゴタに流入する人口が極めて大きいことである。センサスは行われているものの、人口の実態は正確に把握することは困難という。人口の流入がたえまなく、しかもその大部分は低所得者層に占められ、居住地が無秩序に拡大しているためである。このような現象はボゴタ市の政治、経済、都市政策等あらゆる面に多大の影響を与えている。

ボゴタ市の人口の推移（推計値）は次表のようであり、年 7.5% という高い増加率を示している。

表-1. 人口の推移

1970年	2386千人
71	2527
72	2677
73	2836
74	3004
75	3183
79	4133



出典：DANE Anuario 1975  
1979年値はボゴタ市計画局による

ボゴタ市は18の行政区に分けられているが、各区の1979年人口及び人口密度は表-2のようである。区制は1972年から実施されたものでその区分にあたっては、ほぼ同規模の人口を擁するよう考えられたが、現在は都心地域の減少傾向がみられるかわり周辺区の人口増が著るしい。人口密度(グロス)は都心及び周辺区で高密度であり250~350人/haである。

表-2. 人口の分布, 人口密度

	人口 (人) (1979年)	面積 (ha)			人口密度 (人/ha)	
		合計	都市部	農村部	対全域 <sup>a</sup>	対都市部 <sup>b</sup>
合計	4,132,170	158,700	28,005	130,695	26.0	147.6
1 ANTONIO NARIÑO	144,515	450	450	-	321.1	321.1
2 BARRIOS UNIDOS	301,620	1,200	1,200	-	251.3	251.3
3 BOSA	206,074	8,200	975	7,225	25.1	211.8
4 CIUDAD KENNEDY	415,255	3,400	2,200	1,200	122.1	188.8
5 CHAPINERO	130,109	4,500	1,150	3,350	28.9	113.1
6 ENGATIV'A	417,003	3,300	2,350	950	126.4	177.4
7 FONTIB'ON	324,835	3,000	2,300	700	108.3	141.2
8 LA CANDELARIA	59,687	170	170	-	351.1	351.1
9 MARTIRES	174,883	600	600	-	291.5	291.5
10 PUENTE ARANDA	299,506	1,600	1,600	-	187.2	187.2
11 RAFAEL URIBE	359,165	1,200	1,200	-	299.3	299.3
12 SAN CRISTÓBAL	358,344	4,900	1,900	3,000	73.1	188.6
13 SANTA FE	152,057	2,860	660	2,200	53.1	230.4
14 SUBA	205,386	9,700	4,500	5,200	21.2	45.6
15 TEUSAQUILLO	154,965	1,350	1,350	-	114.8	114.8
16 TUNJUELITO	264,971	1,850	1,850	-	143.2	143.2
17 USAQU'EN	121,499	5,800	3,300	2,500	20.9	36.8
18 USME	42,296	104,620	250	104,370	0.4	169.2

- 注 1. 人口はボゴタ市提供資料による  
 2. 面積はDANE ANUARIO 1975 による  
 3. 人口密度は上記資料により単純算定したもので年次が異なること等から実態を正確に表わしてはいないが、一応の目安にはなる

## (2) 産 業

ボゴタ市はコロンビアの政治、経済の中心地であるが、工業はメデリンMedellin、バランキアBarranquilla が工業都市として発達している。これは、ボゴタが内陸高地に位置し交通条件の制約をうけるためである。従ってボゴタの工業生産は、タバコ、織物、食品、皮革等軽工業が中心である。

また、ボゴタは高原盆地で生産されるトウモロコシ、小麦、バレイショ、果物等農産物の集散地でもある。

## (3) 市街化の状況

高原盆地東端に連なる急峻な丘陵地を背に、前面に広がるSabanaに南、北、西の3方向に市街化が進展している。この3方向の市街化傾向は極めて特徴的である、それは、所得階層の相違による地域的な住みわけが、自然と明確な形態で市街地形成に現われているからである。

すなわち、都心部のold townに連担して南部地域への市街化は低所得者層の居住地によって占められており、その主体は1～2階建の密集住宅である。前述のごとくボゴタ市には地方からの人口集中が著しく、これら移住民の住宅地開発がSabanaの南から丘陵地にかけて急テンポで進んでいる。特に丘陵地斜面でのスプロール化が問題となっており、その対策が市の計画当局の大きな課題となっている。

それと対照的に都心から北の方向には、高所得者層の高級住宅地を中心とする市街地が展開する。住宅地の発展とともに、ショッピングセンターの建設等、近隣商業地の整備も行われている。

都心及びその周辺の地域は、わが国でいえば、いわばマンションにあたる中高層の高級住宅、郊外は1戸建或は2戸建(semi detached)の住宅地開発が行われている。

なお、わが国でいう団地或はニュータウンというような大規模な住宅地開発はない。

この南北方向の市街化傾向の強さにくらべると、都心からボゴタ川Rio Bogot'aに至る西側の地域は、まだ市街化がそれほど進んでいない。しかし地域の性格としては主として中流階層の住宅地となりつつある。また、工業地の開発も行われつつあり、都心から空港にかけての一部、南西の幹線道路周辺で工場の進出がみられる。

都心部には事務所、店舗、ホテル等が集中しているが、事務所地区は次第に都心の北側に集積しつつある。また、都心のショッピング地区は中低所得グループのたみの地区となりつつある。

図は以上のような市街化の特徴を模式的に表わしたものである。

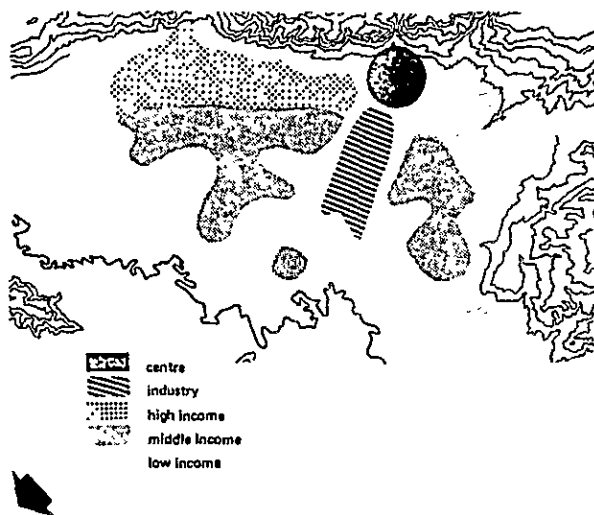


図-1 市街化と所得階層別地域分布

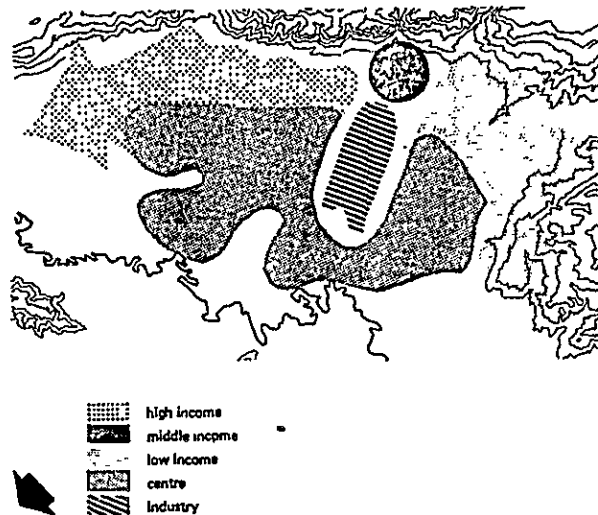


図-2 現在の傾向が今後も続いた場合

出典：The Future of Bogotá : 1973 IBRD, UNDP

#### (4) 交通

ボゴタは国土の中央部に位置するが、高原盆地にあるため交通事情が制約され、地方都市との連絡には航空機が主に利用されている。

鉄道は国鉄がボゴタと地方都市を結んでいるが、貨物が主で旅客用としてはあまり機能していない。保線状態も良好とはいえず交通手段としてはウェイトは低い。

市内の公共交通機関はバスとタクシーが主で通勤輸送の85%を占める平均通勤距離は7~10km、バスは私企業の交通会社に大部分を依存している。自家用車保有率は13%と低く、そのほとんどが北部地域居住者に属するものである。(なお、以上の数値は1972年のものであるが、現在でもこれと大差はないと思われる)

国鉄の中央駅は都心の西方にある。1日数本の運転本数であり、駅周辺には地方都市と結ぶ長距離バスと市内バスのターミナルがある。道路は放射、環状の幹線が比較的良く整備されている。都心の駐車場難には手をやいており、路上の駐停車規制を厳しく行っている。

## 2. 都市の基本構想

### (1) ボゴタ広域都市圏の調査

1972年コロンビア政府はボゴタ都市開発調査を行った。これはUNDP (United Nation Development Programme) の資金援助によりIBRD (International Bank of Reconstruction)

が、国、自治体よりなる計画委員会を構成して実施したものである。この計画は1990年目標の開発戦略と1980年のstructure planを内容としたものである。現在ボゴタ市はこの調査結果に基づいて長期構想を策定し諸計画を実施している。

この調査の対象とした地域はボゴタ広域都市圏で、ボゴタ市、Rio Bogotá及びその北西のSabana地域を含む広域圏であり、1972年人口330万人、1980年現在540万人、1990年現在890万人となっている。1990年の基本的開発戦略は図-3のようである。

## (2) ボゴタ市の基本構想

ボゴタ市は1975年に1985年を目標とした市街化地域を設定した。その基本的な考え方は、南北方向に市街化が進む傾向を抑制し、そのかわり北西方向に誘導していかうとするもので、この市街化の形態をセミサークルパターン Semi Circle Pattern と呼んでいる。これは、南北軸にこれ以上市街化が進むと低・高所得者層の地域的分離が益々顕著になること、都心と住宅地との距離が広がり、通勤交通などからみて好ましくないこと、セミサークルパターンは、都市施設整備上効率が良いこと、1990年以後の発展のバリエーションに対しても良いパターンであること等の理由によるものである。

基本構想は、4つの環状線、6つの放射線の幹線道路を骨格とし、通過交通動線と住宅地と都心を結ぶ内々交通動線の分離、通勤交通、物資輸送の結節点となる交通ターミナルの配置等を基本としつつ、土地利用パターンの想定を行っている。

セミサークル方式による都市整備の基本パターンは図-4のようである。

以上の基本構想にもとづき用途地域制、道路計画、上下水計画等が策定され、ボゴタ市の都市計画法によって建築規制や事業化が行われている。

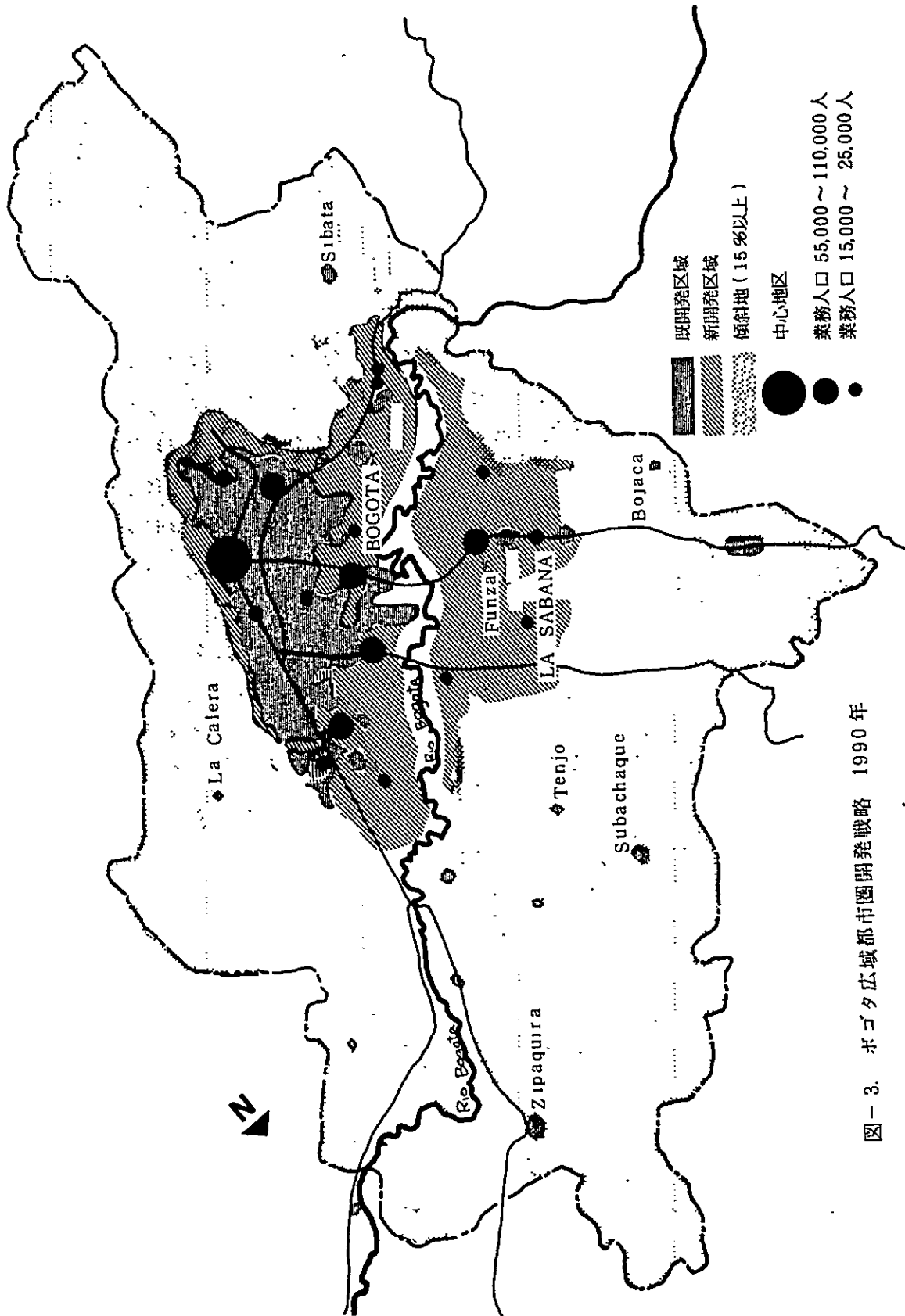
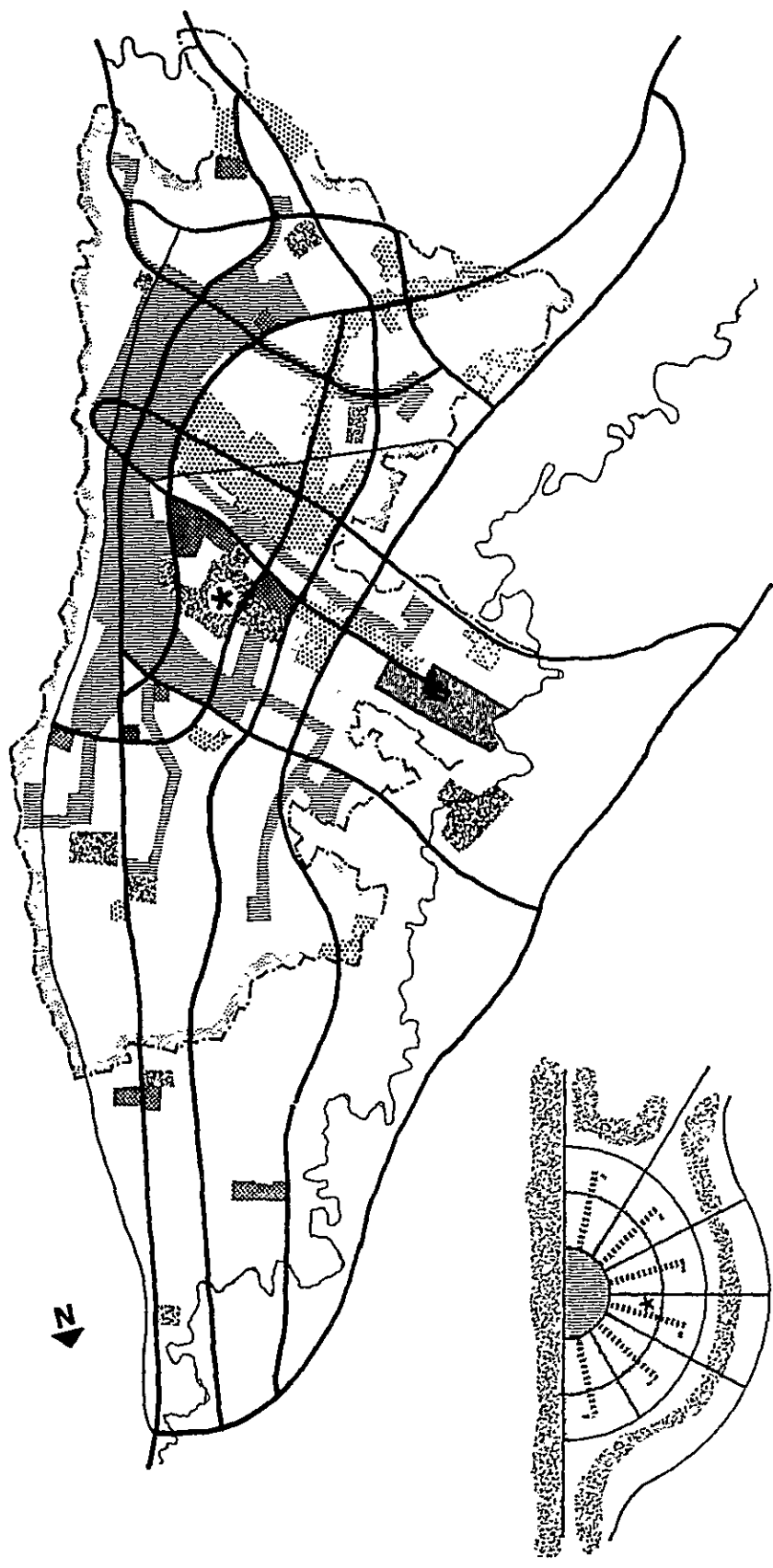


图-3. ボゴタ広域都市圏開発戦略 1990年  
 出典：The Future of Bogotá 1973








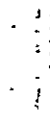




- |   |       |   |           |   |                |
|---|-------|---|-----------|---|----------------|
|  | 中心市街地 |  | 緑地        |  | シモン・ボリバール公園予定地 |
|  | 住宅地   |  | 大学等教育文化施設 |  | 計画区域界          |
|  | 工業地   |  | 空港        |   |                |

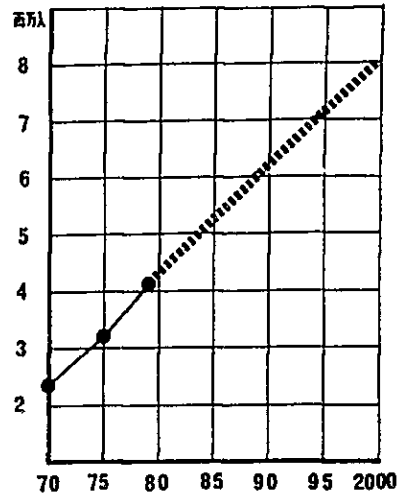
図4 都市整備の基本パターン  
出典：ボゴタ市計画局

### (3) 人口の見通し

ボゴタ市の人口は先に述べたように正確には把握されていない。このため市の計画当局では都市計画を行うに当っては、1985年人口を500万人と想定している。

なお、先に示したDANEの資料から、トレンドにより将来推計をしてみると1990年には600～650万人、2000年には800～850万人となる。

表-3. 人口の見通し



### 3. 市街地の発展とシモン・ポリバール記念公園の位置

ボゴタの都市整備は、都心から西側方向に重点をおき、セミサークルパターンの都市発展を実現しようとしている。計画通りに市街化が進められるとなると当公園計画予定地は、まさに将来のボゴタ市街地の中央に位置することになる。また、この位置は3つの居住階層、すなわち南の低、北の高、西の中といった所得階層地域の接点ともなるところで、このことは今後シモン・ポリバール公園の性格を規定する重要な意味をもつことになる。つまり、公園予定地がセミサークルパターンの市街地の中央に位置することは各地域からのアクセスが容易となるため、公園の性格如何によってはすべての市民が利用しうる公園とすることが可能となることである。

土地条件からみると公園予定地が位置する地域は地盤が悪いため建築物等構造物の計画にあたっては注意が必要である。ゾーニングでは公園予定地周辺の住宅地は5階以下に制限されている。

なお、公園予定地からさらに西方に位置する国際空港は現在改良計画が構想中であり、その計画が確定するまでは、周辺の開発計画は制限されている。

また、公園予定地に接して鉄道がはしっているが、ボゴタ都市整備の長期構想では鉄道も含めた交通ターミナル計画が考えられているので、当公園計画にあたっては、交通計画の動向についても配慮する必要がある。

### 3-2 ボゴタ市の公園緑地の現況

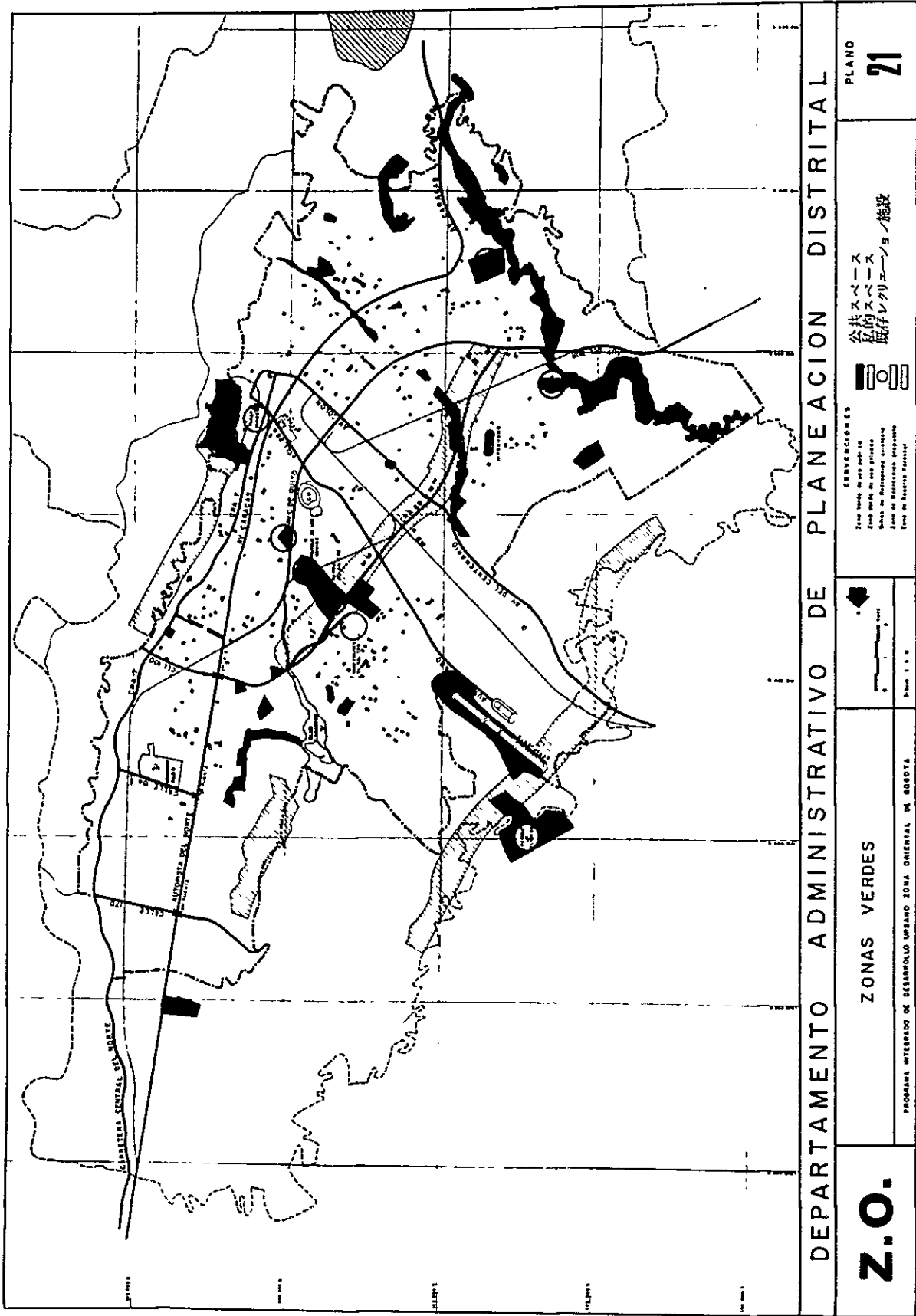
ボゴタ市の公園緑地の現況は図5の如くである。そのうちナショナル公園、インデペンデンス公園と今回のプロジェクト対象であるシモン・ボリバル記念公園は国が直接所管（計画～管理）しており、他の公園はボゴタ市が担当している。

1968年におけるボゴタ市の住民一人当り公園緑地面積は2.0 m<sup>2</sup> であり、現在これを5.0 m<sup>2</sup> にすべく努力を行なっている。公園数は3 ha 以上の公園16カ所、3 ha 以下の公園130カ所である。

コロンビア国ではスポーツを中心にレクリエーションが盛んであり、週休二日制が広く浸透している。バレーボール、体操、テニス、自転車、サッカー、バスケットボールとコロンビア国特有のテホ（屋外ボーリング様のスポーツ）が7大スポーツとされているが、ボゴタ市内の主要公園内におけるスポーツ施設数は表4の如くである。

表4. 主要レクリエーション地におけるスポーツ施設の配置現況

公園名		El Salitre	El Tunal	La Floride	Parque Montes	Gaitan Cortes	Parque de Kennedy	Total
施設名		サリトレ	ターナル	フロリダ	モンテ	コルテス	ケネディ	
Baloncesto	バスケットボール	10	-	38	-	4	-	52
Tenis	テニス	3	-	3	-	-	-	6
Fútbol	サッカー	1	1	10	-	1	-	13
Patina jey hockey	ホッケー	1	-	-	-	-	-	1
Microfútbol	ミニサッカー	3	3	-	-	-	-	6
Mini básquet	ミニバスケットボール	3	3	-	-	-	-	6
Voleibol	バレーボール	2	3	3	2	4	1	15
Jardin de tejo	テホ	-	-	10	5	5	4	24
Ecuestres	乗馬場	-	-	1	-	-	-	1
Béisbol	野球	-	-	-	-	1	-	1
TOTAL		23	10	65	7	15	5	125



図一5 公園緑地計画図

表5. ボゴタ市の主要公園面積

公 園 名	面 積
テ イ ミ ザ	25 ha
サ リ ト レ	56
フ ロ リ ダ	278
ラ - ゴ	25
ナ シ ョ ナ ル	2
モ ン テ	26
タ - ナ ル	93
ス - ル	11
ケ ネ デ イ	17
コ ル テ ス	5

コロンビア国においては所得による生活格差が顕著であり、生活圏域も別々といった状況が見られる。そのためレクリエーションの面においても上流生活者は閉鎖的空間である私的なクラブにおいて彼等独自のレクリエーション活動を楽しんでおり、中流以下の階層に対する余暇対策として公園の整備が重要な国家的プロジェクトとなっている。

ボゴタ市におけるスポーツレクリエーションゾーンは4地区に分類できる。北地区は上流生活者が多くプライベートな施設整備が必要とされている。このプライベートな施設については都市計画上、将来とも同目的の土地利用が継続されるような規制がひかれている。中央地区は現在スポーツ施設が最も完備されている。南地区、西地区は低所得層が多く居住し、スポーツレクリエーションを最も愛好しているが施設整備は遅れている。そのため市当局は、それらの住民のために公園外にもミニフットボール場といったような施設整備を積極的に進めている。

### 3-3 シモン・ボリバル記念公園の意義

シモン・ボリバル記念公園はコロンビア国の建国の父シモン・ボリバル (Simon Bolívar) 将軍の生誕200年を記念して同国政府が行なうプロジェクトの一つである。

コロンビア国政府はシモン・ボリバル将軍の生誕200年を国家的記念行事として捉え、シモン・ボリバル生誕200年記念法を制定した。同法には関連国(ベネズエラ等)への親善使節団の派遣・記念切手の発行・古戦場の整備・シモン・ボリバル邸の保存・港湾整備・道路整備等の記念事業と並んでシモン・ボリバルを記念する大衆公園の整備が謳われている。この大衆公園を具体化するプロジェクトがシモン・ボリバル記念公園計画である。

シモン・ボリバル将軍がコロンビア国の建国の父と呼ばれる由縁は、1718年以來ベネズエラと併せコロンビアを統治していたスペインを破り、独立の基礎を固めたことによる。

独立までの経過を概述すると……

1718年以來スペインに統治されていたコロンビアにおいて、統治者であるスペイン王朝の苛酷な圧政からの解放を目的に、19世紀に入って独立運動が活発化し、1810年7月民衆がボゴタで独立宣言を発表するとともに、スペイン王朝が設置していた副王を国外に追放した。そのためスペイン政府は1815年に5,000名のスペイン軍をコロンビアに派遣し鎮圧に努力したが、1819年シモン・ボリバル将軍の率いる解放軍にボゴタ近郊のボヤカ平原において敗退し、ここにコロンビア国独立の基礎が固まった。同年、現在のコロンビア、ベネズエラ、エクアドルの3国を一丸とした大コロンビア共和国（Republica de Gran Colombia）の結成が宣言され、初代大統領にシモン・ボリバル将軍が選ばれた。このようにして現在のコロンビア国の基礎が固まった。

丁度1980年12月17日がシモン・ボリバル将軍の没後150年に当たるとともに1983年が生誕200年に当たるため、これを国家的記念行事として盛大に慶賀することが計画され、特にコロンビア国民に敬愛されている偉人であるところから、国民各層に親しまれる記念公園建設プロジェクトが発足したものである。

### 3-4 計画対象地区及び周辺の現況

#### (1) 計画対象地区の現況

##### 1) 位置及び面積

計画対象地は、首都ボゴタの市街地の中心部に位置しており、本公園から10kmの圏内に市街地がほぼ包含されることとなる。

交通は、ボゴタ市の南北の幹線街路であるAVENIDA 30 (AVENIDA CIUDAD DE QUITO) 及びAVENIDA 68 (AVENIDA DEL ESPECTADO)、東西の幹線道路であるCALLE 26 (AVTOPISTA EL DORADO) にそれぞれ近接あるいは接しており、当公園へのアプローチは極めて便利である。

また、敷地の東側に接して鉄道が通っており、現状では公園利用としては不適當であるが、将来の交通計画によっては、鉄道を利用した公園へのアプローチも期待される。

敷地は、道路及び鉄道によって周囲と明確に区分され、2区画によって構成される。西側部分 (LOTE 1) はほぼ方形で面積約97.8ha、東側部分 (LOTE 2) は三角地で面積約13.9ha、合計面積約111.7haである。両区画の間は、巾員60mのAVENIDA 60が通っているが、交通量は少なく、スピードを出して通過する事が多い。

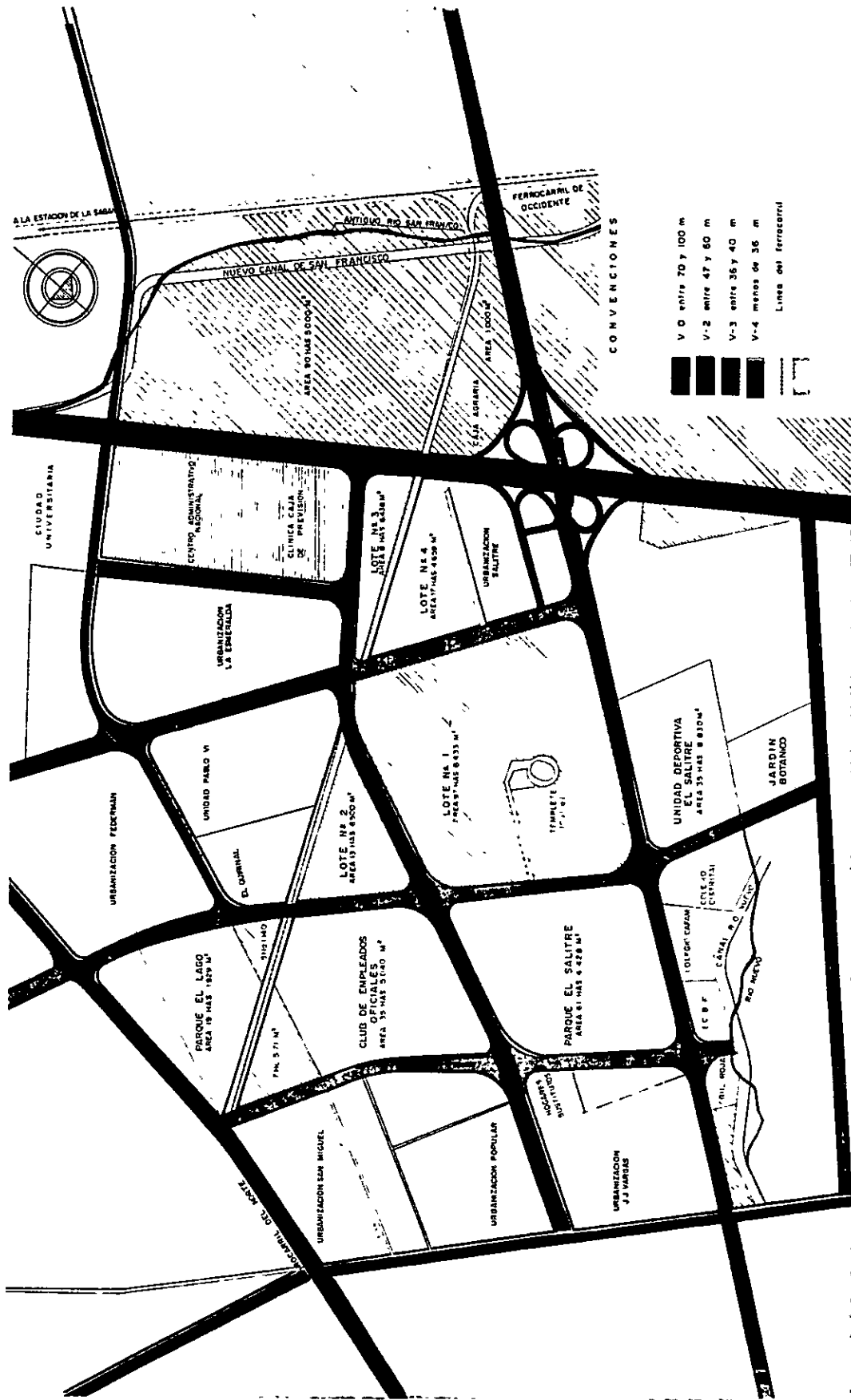


図6 計画対象地区の現況図

## ii) 地形及び地質

計画対象地は、周辺を含め全くの平坦地である。

この地域一帯は、400年位前までは大きな湖であったといわれており、地盤が悪く、隣接する公務員クラブ (CLUB DE EMPLEADOS OFICIALES) における地質調査結果によっても地下水位が高く (2m前後)、支持力も小さい。

また、土壌 (ファンクノソ) は樹木の生育には適さず、植栽する場合には、客土等の土壌改良が必要である。

## iii) 現況

計画対象地は、現在一面に牧草によっておおわれ、樹木はほとんど存在しない。工作物としては、LOTE 1の中央やや北西寄りに、1969年の国際カトリック会議開催の際、ローマ法皇の訪門を記念して建造された教会がある。この建物は、ボゴタ市民の精神的なよりどころとなっていて、時おり利用されているようであるが、内装等が不完全で管理状態も悪く、かなりの修復等が必要である。その他の工作物としては、一部牧畜用の小屋があるだけである。また、教会を中心にして放射状及び環状の道路の敷地跡がある。これらは牧草によっておおわれているが、空から見ると他の部分とはっきりと見分けられる。

## (2) 周辺地域の現況

### i) 概況

計画対象地区の北側の隣接地は、CALLE 63をはさんで東からラゴ公園 (PALQUE EL LAGO)、公務員クラブ (CLUB DE EMPLEADOS OFICIALES)、サリトレ公園 (PALQUE EL SALITRE) が、また CARRERA 68をはさんでサリトレスポーツセンター (UNIDAD DEPORTIVA EL SALITRE)、植物園 (JARDIN BOTANICO) があり、これらの公園施設は、巾員40～60mの道路によりそれぞれ分断されてはいるが、計画予定地と一体となって、全体面積で約300haの一大公園を形成している形となっている。

計画対象地区の南東の隣接地区は、鉄道をはさんで住宅地となっており、その一部は5階建の中層アパート群となっている。また、南西側は、2.3階建の住宅地と、一部空地が残っている。この空地 (LOTE 3, 4, 約26ha) は AVTOPISTA EL DORADO に面し、また鉄道が貫通しており、将来、ボゴタ市の総合交通センター地区として整備されるという計画があることから、公園計画を策定する上で特に考慮すべき必要がある。

### ii) サリトレ公園 (PALQUE EL SALITRE)

- 面積：約61.4 ha
- 主な施設：遊園地 (ジェットコースター、メリーゴーランド、飛行塔、観覧車、その他)、サッカー場 (5面)、ソフトボール場 (1面)、バスケットボールコート (14



面)、テニスコート(3面)、自転車道、リフト、ミニゴルフ、児童遊戯施設、その他

- 概要：ボゴタ市が管理している市民のスポーツ、レクリエーションのための総合的な施設を有する公園で、週末には市民の利用が多いが、施設が老朽化していることと、管理が不十分な面が見られる。入園料は20ペソ、各遊具の利用料金は3～5ペソ程度である。収入から見た利用状況は、1月、6月、7月、12月に利用者が多いが、季節的な変化は、最低月が最高月の1/2以上でその差はあまり大きくない。

隣接地に赤十字の施設があり、プールでは泳ぎ方の指導を行っている。

### Ⅲ) ラゴ公園 (PALQUE EL LAGO)

- 面積：約19.2 ha
- 主な施設：人工湖(面積約4.6 ha)、カフェテリア、児童遊戯施設、野外バーベキュー施設、植樹帯、その他
- 概要：人口湖を中心とした、施設の少ない静的な公園である。ボート遊びができるが、モーターボートの利用と共存していて危険である。橋など、施設が老朽化して危険なものもあり、改良の必要あり。

### Ⅳ) サリトレスポーツセンター (UNIDAD DEPORTIVA EL SALITRE)

- 面積：約35.9 ha
- 主な施設：中央体育館(観客席10,000名収容)、練習用体育館(カラテ、重量挙げ、卓球、ボクシング、柔道、体操競技、バレーボール、バスケットボール)、陸上競技場(3,000名収容のスタンド)、野球場、サッカー場、バスケット場、バレーボール場、ミニサッカー場、サイクリング道路等
- 概要：ボゴタ市の管理による。体育館は設備が立派であり、利用者も多いようである。施設の利用は会員制であるが、申し込めば、だれても利用できる。

### Ⅴ) 公務員クラブ (CLUB DE EMPLEADOS OFICIALES)

- 面積：約35.5 ha
- 主な施設：サッカー場(3面)、野球場(1面)、ソフトボール場(1面)、バスケットボール場(9面)、テニスコート(9面)、フロントン(5面)、陸上競技トラック、室内プール(50m、オリンピック規格)、子供バンガロー、キャンプサイト(600人宿泊)、ホテル(24室、各3.4人収容)、サロン(3,000名収容可能)、ボーリング、ビリヤード、ピンポン、チェス等
- 概要：1974年に設立された公務員の会員制の福利施設。現在会員数は13,000名。ピンポン、カフェテリアを持つ室内プールや、ホテル、室内遊戯施設、サロン、

管理部門を有する中央センターの施設水準はかなり高く、周辺の一般市民が利用する公園施設との較差が目立つ。

今後、体育館、祈とう所等を建設していく予定とのことである。

vi) 植物園 (JARDIN BOTANICO)

面積：約 26 ha

概要：1955 年に設立された。

150 種のコロンビアの樹木、50 種の外来樹木が植えられている。

入園料 15 ペソ (学生 5 ペソ) で毎日開園。入園者は毎年約 4 万人、サバナ地帯の植物の研究を主として行っている。この地域は、もともと土壌が樹木の生育に適さないため、土壌改良に力を入れてきている。

vii) その他

○ 駐車場の整備状況は次のとおりである。

公務員クラブ	現況	260 台
	計画	235 "
	( 計	495 ")
ラゴ公園	現況	80 台
サリトレ公園	現況	340 台
サリトレスポーツセンター	現況	75 台
	計画	560 "
	( 計	635 ")
合 計	現況	755 台
	計画	795 "
	( 計	1,550 ")

(3) 公園計画策定に当たっての留意事項

1) 給排水

給水については、市の上水道による余力はあるようである。

排水については、ボゴタ市全域にわたり悪いようである。計画対象地周辺は、ほぼ平坦の地形であるが、約 3 km 北側にボゴタ川 (RIO BOGOTA) が流れており、公園区域からの排水は最終的にはここに放流することとなる。そこまでの間は支流の RIO NUEVO が計画対象地の近くを流れており、CANAL RIO NUEVO が計画されているようであるので、そこまで暗渠又は開渠を設けることにより排水は十分可能であると思われる。

## ii) 植 栽

植栽については、植物園において、コロンビア及び外来の樹木の育成が25年間にわたって行なわれ、研究されてきているので、これらの成果が十分活用できる。計画対象地は土壌が悪く、植栽に当っては客土等の土壌改良が必要であるが、同じ条件の植物園でもかなりの樹林を形成しているので、技術的にはあまり問題とならない。ただし、高木林になると、樹木が傾いてくるので（風の影響はほとんどないと思われる）、この対策に植物園でも力を入れているということであった。

植栽樹種についても、植物園において、ボゴタの環境に適合した樹木のリストが作成されているので参考となる。現在、ボゴタ周辺の高木林はほとんどユーカリによって占められているが、根が発達しすぎ、埋設物を破壊することがあるので植栽場所を選定する必要がある。この地方に現在植栽されている樹種は限られているが、樹形的には多様で、景観構成上問題となることはないと思われる。

また、苗木の供給に関しては、植物園の苗圃、FUSAGASUGA の CAR（治水公社）の苗圃、ボゴタ市のフロリダ公園（PARQUE LA FLORIDA）の苗圃等で用意されうるものと思われる。

## iii) 施設内容

公園予定地に盛り込まれるべき施設について、コロンビア政府は、各階層の市民のスポーツ・レクリエーションのために各種の施設の導入に大きな期待を持っており、公共事業省不動産局がまとめた報告書にも多様な施設が盛り込まれている。また、ボゴタ市長が乗馬クラブの建設を望んでいるといったように、地方公共団体や一般市民からも過大な要求がある。公園計画を策定するに当たっては、これらの施設要求に対応せざるを得ないが、110 ha の公園予定地では盛り込むべき施設も限定されるので、周辺地域への配置等を含め十分検討を要する。

また、シモン・ボリバルの記念碑は既に準備が進められて模型が完成しているとのことである。本公園の中心的な施設であり、公園計画上その配置等に当たって十分留意する必要がある。

## iv) 管理等

公園に関する管理法規はないようである。

公園施設に対する建築規制については、住宅地等における一般的な基準は適用されず、個別に市の審査を受けることになる。計画予定地は地盤が悪いため大きな建築物は建てられないが、支障がないと認められれば許可されうる。

公園の管理については、コロンビア政府として公園への投資あるいは維持管理費を利用者なり、あるいは周辺地域の受益者に還元してもらう（道路等ではValolizaiçionという受益者負担方式が確立していて工事費の半分程度をまかなっているようである）ことを考えているようである。公園の施設整備や維持管理の財源を全て利用者等からの収入で充当するのは困難であるが、フィジカルな公園計画を策定する場合においても、そのような面を含めて検討する必要がある。

## IV 協議の概要

### 4-1 要請の背景と概要

現政権のトルバイ大統領は、就任早々国会にシモン・ボリバル生誕200周年（死後150年）を記念してボゴタ市の中央部にシモン・ボリバル記念公園を造成する法案を提出し、同法案は1979年5月17日国会の承認をえて法律第31号として発付された。

この法律は21条からなり、その第1条で「解放の士であり建国の父である Simon Bolivar の生誕200周年が1983年7月24日、死後150周年が1980年12月17日にあたるので、国をあげてこれを祝福し、同日を歴史上偉大なる日として祝日とするものである、」とし、第5条では「政府公共事業運輸省は Bogota 特別市の協力をえて次にあげる建設事業にとりかかるものである。

a) ボリバル邸 (Quinta de Bolivar) に隣接するボリバル庭園

b) El Salitre 内に解放の士シモン・ボリバルを記念する市民公園」

と規定しており、この法律に基づいて El Salitre に約110 ha の用地を Cundinamarca 州財団から購入取得した。

この一大偉業建設を担当する同国政府公共事業運輸省 (MOPT) は同国にはアイデアをもつ建築家は少なくないとしながらも、これを計画し設計する造園専門家をはじめとする技術集団の協力が必要だとして、1979年6月親日実業家を通じて在ボゴタ日本大使館に造園デザインに関する協力方非公式打診を行なった。

その後8月に、同政府は terms of reference (T/R) を付して正式に要請越してきたが、当初その構想からみて、建物・施設に巨額の投資を必要とし、設計といっても多額の資金を要するので、我が国の資金、無償、技術面での各協力形態になじむかどうか疑問な点があった。そのため、我が国の協力範囲を明確に理解してもらうのに時間を要したが、先方が熱心に希望している上に、わが国の対コロンビア援助は経済面に限る事なく、このような文化社会面での協力が長期的友宣関係を深める意味で有益であるとの意見具申をも考慮に入れて、とりあえず今般の事前調査の実施にふみ切ったものである。

同国政府の要請 (T/R, 原案1979年8月提出, 最終案1980年6月提出) によれば、ボリバル記念公園の構想はラテンアメリカの統合を基礎に大コロンビアを構成した同胞の国々(コロンビア, ボリビア, ベルー, ベネズエラ)でシモン・ボリバルの思想をシンボリックな方法で理解しあうことが考慮されなければならないという前提をおいている。

同国が現在考えている概要は次のとおり。(詳しくはT/R 原文参照のこと)

シモン・ボリバル記念公園はボゴタ市内に植性保全, レクリエーション, スポーツ, 文化・教育の場として約350 ha を必要とし、これが出来上ればおそらくラテンアメリカ第一の都市公園緑地となろう。現況は、

- A 地区
  - a 恋人公園 (El Lago 公園)
  - b 公務員クラブ (Club de Empleados Oficiales)
  - c El Salitre 公営遊園地
  - d El Salitre 公営スポーツセンター
  - e 植物園

- B 地区 (最近取得された約 110 ha)
  - a ローマ法王訪問記念教会のある lot
  - b 道路 No.60 と鉄道に囲まれた lot

これら地区の改変にあたっては、都市計画、都市交通、建築、土地利用計画など多くの諸計画、規制と十分調整する必要がある。とくに地区内の施設利用、移動には大量交通手段に見合う地区内交通手段を講じる必要がある。

マスタープランでは、上記既存施設の改良の他に次のような施設が検討の対象として考えられる。

#### A Simon Bolivar 市民文化センター

- A-1 市民中央会館
- A-2 国際会議場
- A-3 図書館
- A-4 アメリカ人類博物館
- A-5 アンデスおよびラテンアメリカ議事堂
- A-6 ラテンアメリカプラザ

#### B 国際観光センター

- B-1 ホテル
- B-2 商業会館
- B-3 国際コーヒー会館
- B-4 金融会館
- B-5 国際エメラルド会館
- B-6 コロンビア工芸会館
- B-7 コロンビア美術館
- B-8 貿易会館
- B-9 ABC 会館
- B-10 映画館
- B-11 海洋会館

#### C 社会親善センター

- C-1 ソーシャルクラブ

- C-2 プール
- C-3 児童レクリエーション場
- C-4 児童遊園地
- C-5 Germinations プラザ
- C-6 老人の森
- C-7 誕生プラザ
- C-8 エアモデルプラザ

#### D 総合庁舎

- D-1 シモン・ボリバール公園管理事務所
- D-2 保安管理事務所
- D-3 総合案内所
- D-4 公園スタンプセンター
- D-5 体育振興事務所 (Coldeportes)
- D-6 植物園事務所
- D-7 ボリバール親善センター

#### E 交通博物館

### 4-2 コロンビア 政府関係者の意向

1979年6月先方政府関係者から大使館に協力要請があつてから1980年6月の事前調査までの間に様々の公式・非公式の意見交換が行なわれ、先方の意向確認に努めた経緯がある。主な経過は次のとおり。

- 1979年6月 親日実業家を通して公共事業運輸大臣の非公式打診が大使館にあつた。
- 8月 在ボゴタ四商社代表か同大臣によれば設計料の分担可能性につき非公式打診があつた。
- 8月 T/Rを付し正式要請。
- 11月 民間人が商社同席の上、同大臣に会見し、彼の意向を大使館、国内関係者に伝えた。
- 12月 外務省担当官、別件で訪コの際、先方関係者と非公式会見、事前調査実施の方向で検討を始めた。
- 1980年1月 建設省およびJICAの関係者、別件で訪コの際、先方関係者と非公式会見、現地視察を行なつた。
- 3月 わが国技術協力の範囲限界に了解がえられない懸念があつたので事前調査団の派遣をとりあえず中止した。
- 3月 日本人某建築家が訪コし、設計協力につき意見交換したが、技術協力との仕分け

および資金面がはっきりせず交渉不調に終わった模様。

- 4月 先方の熱心な協力要請があり、三条件を付して事前調査団派遣につき再度検討開始した。三条件とは、1) D/D, 施工管理の協力および資金協力は行なわない、2) 協力対象範囲は110haに限り、M/P(一部基本設計)までとする、3) コンサルタントは特定せず、日本側(JICA)が独自に選定する。
- 6月 事前調査の実施

事前調査団が滞在中は大臣補佐のDr Julio Jose Fajardoが先方のスポークスマンとして本件の説明を行なった。同氏の説明を要約すると次のとおりである。

(1) シモン・ボリバル記念公園造成整備を推進する委員会がすでにあり、その委員長は公共事業運輸大臣で委員構成はボゴタ特別市長をはじめとする各省関係者代表からなっており、事務局担当はDireccion General de Inmuebles Nacionales(国家不動産局)の局長である。

Fajardo氏は大臣から直接任命されてこの事業運営の調整役を担当している。

(2) 記念公園の対象は110haの取得済用地だけではなく、その周辺の既存施設約250haを含み計350haである。日本の技術協力による計画の対象は前者約110haであることは充分理解している。後者250haの計画はコロンビア側の建築家グループ(構成は未定)が担当するが、既存施設には改変する余地がかなりあり、又、都市計画、都市交通、環境上調和のとれた記念公園とするために関係者間の慎重かつ充分な協議調整が必要である。従って、日本側調査団とコロンビア側建築家グループとの協調作業を期待している。

(3) 1980年12月17日はシモン・ボリバル死後150周年記念式典が開催される予定であり、この日何らかの具体的ゼスチュアを国民にしたい。

当初、青写真の発表を考えていたが、今となってはそれは無理かもしれない。代って植樹祭を考えているので、日本調査団の作業成果(勧告)を期待している。そのために、すでに1000本位の苗を育苗中である。又一方、シモン・ボリバルの銅像模型はすでに出来上っており、その彫刻家も内定している。

(4) 国家不動産局が用意した説明資料(アイデアは主として在カラカスのコロンビア人建築家Dr. Calros Celis Zeperoから出されたものといわれている)にみられるように諸々の建物・施設計画があるが、建設コストが高く、事業完成には長期間を要するので、当政権内(1982年末まで)に終るわけではなく次期政権にも引き継がれるものと確信している。盛り沢山の施設物はまだアイデアの段階であり、日本側調査団が担当する110haの基本計画次第で内容は変わるであろう。ただし、周辺に影響を及ぼさないで、110haに絞って計画をたてるなら、他の計画をする者(コロンビア側建築家グループをさす)からフォローされなくなる恐れがあるので、構想をたてるうえで彼等と十分調整を保って対処する必要があるであろう。

- (5) 日本人社会とは恐らく違って、コロンビア人の社会にはさまざまな階層がある。余暇活動の研究はいまだ明らかではないが、中又は中下層の市民が休日を楽しむ施設がもっと必要であることは基本的に認識されている。しかし、現状の既存公園施設では上、中上流階級ですら利用できないので、新しい記念公園では全階層の市民がレクリエーション、スポーツ、教養等の場として利用できるように望んでいる。例えば現在のEl Salitre 公営遊園地をディズニーランドのようなものにするとか、乗馬クラブを導入するとかのアイデアも出ている。このために、都市文化、社会構造を含めた Socio-economic な調査にも重点をおいてもらいたい。
- (6) 他に計画上考慮すべき点として、110 ha 内にローマ法王訪問記念時（1968 年？）に建設した教会（ドームと十字架）があり、これは宗教上重要な意味をもつので修復しておごそかな儀式に使えるよう計画である。もう一点は、計画地区南側大空地に大交通センターがボゴタ市都市計画ではほぼ決っており（目下研究中）、これを起点にして地区内にモノレールを導入する構想がある。このモノレールを日本政府が寄贈してくれることを期待している（冗談めいて）。

事前調査団は6月16日（月）伊藤大使同席のもとに、約30分間Dr. Enrique Vargas Romirez 公共事業運輸大臣を表敬した。大臣はごく簡略に次のとおり表明した。

この記念公園はシモン・ボリバルを記念するのみならず、ボゴタ市に大公園をつくることに大きな意味があり、110 ha を担当する日本側調査団とDr. Fajardoをはじめとするコロンビア側技術者と協調して満足できる成果を大いに期待する。

6月20日（金）、国家企画庁（DNP）の国際技術協力課長らを表敬したが、彼等が出した疑問点は次のとおり。

- (1) financial analysis は入っているか。
- (2) 250 ha と 110 ha の関係は。
- (3) 施設の建設期間はどの位かかるか。：財政事情と協議の結果次第。
- (4) 日本側の協力予算は。
- (5) 施設の維持管理はどう考えているか。Valles 州の Parmila 市公園のケースは知っているか。

この他に調査団は、ボゴタ特別市の都市計画課長からのボゴタ市に関するブリーフィングをうけ、スポーツ委員会事務局員、植物園の研究者、それにカウンターパートとして資料収集や現地踏査に協力した Dra. Maria Cristina de Luzardo と Dr. Jose Diaz Cortes らと接触したが、彼らからは本計画に関して具体的なコメント・意向は出されなかった。

#### 4-3 合意の内容

本格調査の scope of work については、ほぼ日本側調査団案の通り合意し、1980年7月23



日付で、丸田頼一事前調査団長とコロンビア政府MOPTのAldemar Mosquera Lara 国家不動産局長との間でDr. Fajardo大臣補佐官およびDra. Nohra Bateman国家企画庁国際技術協力課長立合いのもとにサイン交換した。

微修正した点は在ボゴタ日本大使館の示唆に基づきIntroductionの項で、対象地区は両政府が合意した約110haに関するマスタープラン調査の実施とした点だけで、Dr. Fajardoが要望したsocio-economic studyの追加および250haを担当するコロンビア側建築家グループとの協力・調整の重要性については実行上意を汲み達成されるであろうとして追加修正はしなかった。

scope of workが英文であり、かつ国家不動産局では初めてのことでなじみがない為に、個別具体的な検討は行なわれずに、本事業のスポークスマン（調整責任者）である大臣補佐官Dr. FajardoがOKすればよいということですんなり合意に至ったものである。しかし、外交辞令にたけた同氏のコメントの端々には、すべては本格調査団が作業を開始して問題が顕在化してから個々につめていくという態度が感じ取られた。なお、Dr. Fajardoは英語はたん能であるが、Dr. Mosquera局長は全くしゃべらなかつた。

合意したscope of workは巻末付録に収録してある。

## V 本格調査の実施について

### 5-1 本格調査実施方針案

事前調査の結果および合意した scope of work ならびに帰国後国内の関係者に報告した結果、次期本格調査の実施方針案として次のようにまとめられる。

#### (1) 調査の目的と対象地域

コロンビア共和国政府の要請に基づき、同国解放の士“シモン・ボリバール”の生誕200周年を記念して首都ボゴタに公園を造成整備する計画のうち、取得済みの用地約110haにつきマスタープラン策定のための調査を実施するものである。

記念公園の予定地（前述約110haと周辺約250ha、計約350ha）は発展する首都ボゴタ市の中央部に位置しているため、同市の都市計画・交通体系、環境などを考慮し周辺の既存公園施設等と調和するよう関係者間の十分な調整が必要である。

#### (2) 調査項目

##### 1) 敷地現況分析

- イ 自然条件
- ロ 社会経済条件（含法的規制）
- ハ 土地利用
- ニ レクリエーション施設
- ホ インフラストラクチャ

##### 2) 公園建設の基本理念

##### 3) 計画・設計の基本方針

- イ 土地利用・公園特性の方針
- ロ 導入レクリエーション活動の方針
- ハ 導入建築施設の方針

##### 4) 基本計画（縮尺 1/5,000）

- イ ゾーニング計画
- ロ 動線計画
- ハ 植栽計画
- ニ 主要施設の配置計画
- ホ 公園利用者、施設の需給分析

##### 5) 基本設計（縮尺 1/2,000 内至 1/2,500）

- イ 敷地造成
- ロ レクリエーション施設
- ハ 建築施設
- ニ 園路
- ホ 緑化修景
- ヘ 排水, 上下水道施設
- ト 電気設備
- チ コスト概算

### (3) 調査スケジュールと要員計画

#### 1) 調査スケジュール

既述したように、1980年12月17日にシモン・ポリバール死後150周年記念式典が開催される予定なので、それまでに何らかの中間成果を出すように期待されている。

S/Wで合意したtentative scheduleで示してある通り、現地調査を1980年9月上旬に着手し、3ヶ月間とし、帰国して約2ヶ月半の国内作業の後、再度1ヶ月の現地補完調査を実施する。国内で公園基本設計作業を経て1981年8月末には最終報告書を提出するようになっている。

上記の作業過程で次のようなレポート類を先方政府MOP Tに提出し、必要に応じて説明協議する。

- ① 本格調査団は、現地調査着手後1ヶ月以内(可能ならもっと早期)に既に合意したS/Wに基づいて調査の方法、体制、スケジュール等をまとめたInception Reportを先方に説明し提出する。
- ② 現地調査の中間点でラフな構想について(例えば、記念式典準備に間に合うよう銅像の位置、植樹の位置が決める程度に)、先方関係者と意見交換する。
- ③ 現地調査終了時に国内作業の内容を明らかにするよう、公園建設の基本理念、計画・設計の基本方針案を含めたProgress Reportを作成し説明の上先方に提出する。
- ④ 1981年3月実施予定の現地補完調査の端初に、縮尺5,000分の1程度の図面におさまる基本計画書をInterim Reportとして説明提出し、先方関係者との意見調整を行なう。これと併行して、公園基本設計に必要な諸調査を補完的に行なう。
- ⑤ 現地補完調査から帰国後、縮尺2,500分内至2,000分の1程度の図面におさまる公園基本設計書をFinal Draft Reportとして作成し、現地で先方関係者に内容説明を行なう。
- ⑥ その後、先方のコメントを加味し修正して最終報告書として提出する。

#### 2) 調査団の構成

本格調査の実施予算は既に大巾な制約があるので、少数精鋭で現地で先方関係者と意見調整しながら構想を打ち出しまとめができる専門家の構成が必要である。構成案は次のとおり。

担 当	人 数	現 地	備 考
総 括	1 名	3 ケ 月	国際感覚があること
造 園 ・ 植 栽 計 画	1 名	3 ケ 月	植性，公園施設，修景にも明るいこと
インフラストラクチュア	1 名	2.3 ケ月	上下水，電気，地区内交通等
建 築 計 画	1 名	2.3 ケ月	都市計画にも明るいこと
社 会 ・ 経 済	1 名	3 ケ 月	都市文化，環境評価にも明るいこと

### 3) 便宜供与事項

便宜供与事項についてはS/Wで記載してあるが個別具体的には協議していない。大略次のとおり。

- a 調査に必要なデータ，資料は公的に提供される。
- b 調査団の持ち込みおよび持ち出し資機材は1977年に合意されている日本-コロンビア技術協力協定によってすべて免税される。
- c 調査団の専用オフィス，作業室は確約していないが，MOPT庁舎内で提供される見通しはあるので再度確認する。
- d MOPT 国家不動産局は予算が乏しく，本格調査団に常時車輛を提供できる余裕はない。現地はMOPT庁舎から車で2～3分のところなのでMOPT庁舎への通勤，資料収集の足は市内で容易に調達が可能である。
- e カンターパートの提供は原則としてマンツーマンとしたいが，現状の国家不動産局の体制を考えるとフルタイムというわけにはいかない。同局のスタッフには英語を片言で話せる者もいるが，ほとんどはスペイン語でコミュニケーションをはからねばならない。
- f 持ち帰り資料の通関便宜は所定の手続きが必要な場合もあろうが，同国においてはまず問題は無い。

## 5-2 実施に当たっての留意事項

### (1) 実施体制について

事前調査団がMOPT 国家不動産局と合意した scope of workについては既述の通りであるが，先方の実施体制が確定しておらず事業概要もアイデアの域を出ていないので，調査を進めるに従ってどのような過大な期待を日本側調査団にかけられるかは不安があり予測がつかない。

例えば，この記念公園事業にかかるわが国技術協力の範囲は全体約350haのうち open land 約110ha に対する公園の基本計画（一部基本設計）までであり，その後の公園および建物の設計・施工管理や資金協力は今までの公式のやりとりで一切行なわないことになっている。現在のところ，

国家不動産局の本事業にかかる経常予算はごく少額で、設計に要する資金は同国のコーヒー公社が相当額を拠出する用意があるといわれているが、巨額な資金を要するインフラ整備・造成・建物の建設については基本計画が明らかになってからということで不明である。

国家不動産局は別表のとおり、施設保全課、資材課、建築課の3課からなり、現在管轄する公園の維持管理が中心で、何人かの建築家はいるが造園家がほとんどおらず、この大事業を計画し推進する専門家が限られている点は MOPT 大臣補佐官が自ずから指摘しているところである。従って、同局の用意した本計画の説明資料の主なアイデアは在カラカスコロンビア人建築家から出ているといわれているように、周辺250haを担当するコロンビア側専門家グループはいうに及ばず、日本側調査団のカウンターパートにも民間人建築家で構成される可能性がある。

一方、調査団の構成案は既述のとおりであるが、限られた期間で先方関係者の意向を的確に把握し、相手側が満足する成果品をとりまとめる必要があるため、担当の専門分野に明るく、少なくとも英語の表現能力を有し、協調性のある団員で構成する必要がある。

我が国の技術協力（開発調査ベース）による公園造成は極めて例が少なく（シンガポールの日本庭園、インドネシアのボルグドール観光公園、タンザニアの自然公園など）、今般要請のような大都市公園の造成整備計画の作成は初めてである。我が国の公園緑地事業は近年都市環境整備の拡充と相まって大いに発展しているところである。

本格調査では、官側の技術者を長期、例えば1ヶ月以上、調査団の一員にするには難しい点もあるので、コンサルタントを中心として調査団を編成し、官側は作業監理委員会として機能する方途が考えられる。

作業監理委員会は、当該調査の円滑かつ確実な実施を図るために、事業団内に設けられ、作業の方向・内容について技術上の助言・指導を行なう機能をはたす。委員会のメンバーは建設省、JICA、研究機関、公団公社等における学識経験者あるいは専門家から構成される。構成案としては次のとおり。

委員長	（総括）	1名
委員	（造園・植栽）	1名
”	（公園計画）	1名
”	（建築・都市計画）	1名

委員の一部は事前調査団員が望ましい。

## (2) 資料、情報の入手について

資料・情報の入手は調査団関係者の communication に負うところ大である。ラテンアメリカは他の地域と違って、英語がほとんど通ぜず、スペイン語一辺倒である。因みに、本件関係者には公共事業運輸大臣、および補佐官は英語が堪能であるが、国家不動産局長をはじめほとんどの職員は2

～3人の建築技官を除いて英語は期待できないので通訳を必要とする。同国で発行される資料はほとんどスペイン語であるので辞書と相談して理解する努力が必要である。

幸いに、事前調査団は MOPT 不動産局の絶大な協力により、一通りの関連資料を入手または所在を確認することができた（リストは付-5参照）。本格調査団は本邦出発前の準備作業として、これら資料に眼を通し事前検討（review）しておく必要がある。

本格調査で収集・整理・解析するデータ・資料は今後の作業課題であるが、報告しておきたい主な資料提供関係機関は次のとおり。

DANE（統計局）：MOPT 庁舎の隣りのビルディングにあり、社会、経済、財政、センサス類の諸統計が入手できる。

IGAC（国土地理院）：地形図・地質・土壌関係の一通りの資料は入手できる。

Bogota 特別市庁舎：都市計画関係

DEPORTES（スポーツ委員会）：スポーツ、レクリエーション関係

Jardin Botánico：市付属植物園、植性関係の研究が進んでおり、すでに記念公園用の苗も栽培および付属育苗床 されている。

### (3) その他の留意事項

- ① 都市部の治安は一部を除いては良く、また9-12月は比較的降雨日数は多いが調査活動に支障はない。
- ② コロンビア離国時の外貨持ち出し制限は厳しいので注意を要する。

# 付.

- 付-1 合意済 Scope of Work (英文)
- 付-2 Terms of Reference (西文)
- 付-3 The Findings of Survey (英文)
- 付-4 Ley No 31 De 1971 (西文)
- 付-5 収集資料リスト





FOR

THE MASTER PLAN ON THE SIMON BOLIVAR GREAT MEMORIAL  
PARK PROJECT IN THE REPUBLIC OF COLOMBIA

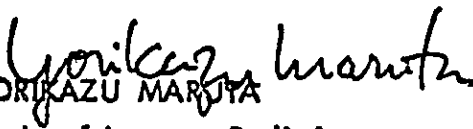
AGREED BETWEEN

MINISTRY OF PUBLIC WORKS AND TRANSPORTATION


AND

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

DATED : on 23rd of June, 1980

  
YORIKAZU MARUYAMA  
Leader of Japanese Preliminary  
Survey Mission for the Simon  
Bolivar Great Memorial Park  
Project


in behalf of the President of  
Japan International Cooperation  
Agency (JICA)

  
ALDEMAR MOSQUERA LARA  
Director of Inmuebles Nacionales,  
Ministry of Public Works and  
Transportation (MOPT)

in behalf of the Minister of Public  
Works and Transportation

UNDER THE PRESENCE OF

  
JULIO JOSE FAJARDO  
Advisor to the Minister of Public  
Works and Transportation

  
NOHRA BATEMAN  
Director of International Technical  
Cooperation, National Planning  
Department

## SCOPE OF WORK FOR

### THE MASTER PLAN ON THE SIMON BOLIVAR GREAT MEMORIAL PARK PROJECT IN THE REPUBLIC OF COLOMBIA

#### I. INTRODUCTION

In response to the request made by the Government of the Republic of Colombia, the Government of Japan agreed to conduct a master plan study on an area of approximately 110 ha, to which both Governments have agreed, of the Simon Bolivar Great Memorial Park Project (referred to as the Study) by offering the service of Japanese expert team in accordance with laws and regulations in force in Japan.

The Japan International Cooperation Agency (JICA), the official agency responsible for implementation of technical cooperation programmes of the Government of Japan, based on the findings of a preliminary survey mission sent to Colombia from June 11 through 26, 1980, will carry out the Study in close cooperation with the authorities concerned of the Government of the Republic of Colombia.

#### II. OBJECTIVE OF THE STUDY

The objective of the Study is to make a master plan on the memorial park for the Liberator Simon Bolivar in Salitre, Bogotá, where an approximately 110 ha. of open land adjacent to existing parks and public facilities has been already acquired.

#### III. CONTENTS OF THE STUDY

##### I. Site analysis

- a. Natural conditions
- b. Social conditions (including regulations)
- c. Land-use
- d. Recreational facilities
- e. Infrastructure

## 2. Concepts for park planning

## 3. Planning policy

- a. Policy for size, character and contents of the Park
- b. Policy of recreational activities
- c. Policy of park facilities , landscaping, etc .

## 4. Master Plan-Phase I (1:5,000)-

- a. Zoning plan
- b. Circulation plan
- c. Plan of landscaping and planting
- d. Layout plans of main areas
- e. Demand and supply analysis  
(recreation, sports, open space and others)

## 5. Master Plan-Phase II (1:2,000-2,500)-

- a. Cut and fill of land
- b. Recreational facilities
- c. Architecture
- d. Circulation
- e. Planting design and landscaping
- f. Drainage, sewerage and water supply
- g. Electricity
- h. Cost estimation

## IV. REPORTS

JICA will prepare and submit the following reports in English to the Ministry of Public Works and Transportation (MOPT) of the Colombian Government.

### 1. Inception Report

- 20 copies
- within one month after arrival in Bogotá

2. Progress Report
  - 20 copies
  - at the end of the first field survey
3. Interim Report
  - 20 copies
  - within three (3) months after the completion of the first field survey
4. Draft Final Report
  - 40 copies
  - within three (3) months after receipt of the comments on the Interim Report
5. Final Report
  - 80 copies
  - within one (1) month after the receipt of the comments on the Draft Final Report

V. UNDERTAKINGS OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF COLOMBIA

1. To provide the JICA study team with relevant data, information and materials necessary for the execution of the Study.
2. To exempt the JICA study team from taxes and duties on materials, equipment and personal effects brought into Colombia, principally in accordance with the agreement on economic and technical cooperation already established between both Governments.
3. To provide the JICA study team with suitable furnished office space and services for the Study.

4. To arrange necessary transportation measures for the field survey.
5. To appoint several counterpart personnel (full-time and part-time) to the JICA study team during the study period.
6. To make arrangements for the JICA study team to bring - data, maps and materials related to the Study back to Japan subject to the approval by MOPT.

## **VI. UNDERTAKING OF THE GOVERNMENT OF JAPAN**

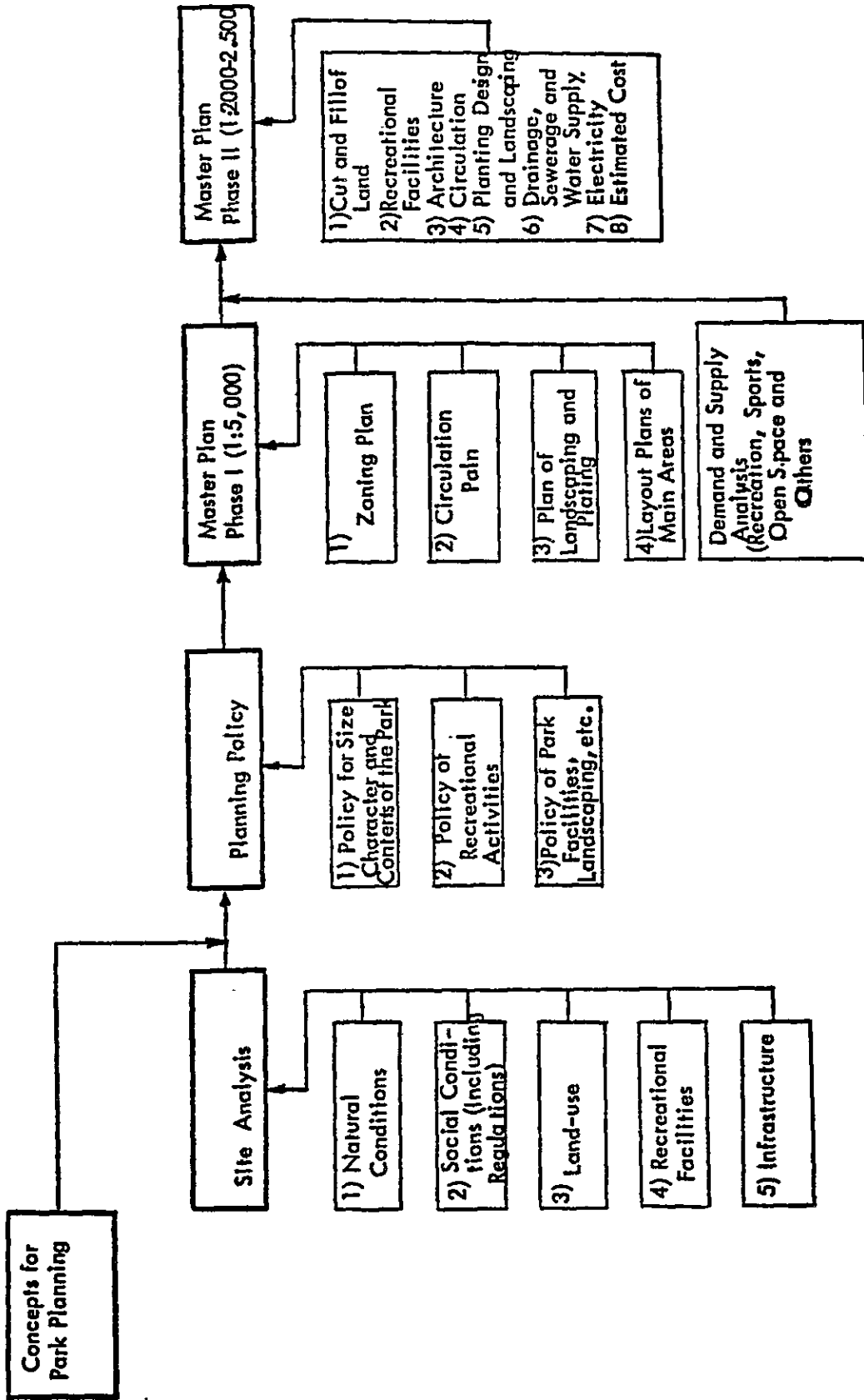
1. To transfer the knowledge for the Colombian counterpart personnel during the Study.

VII. STUDY SCHEDULE (TENTATIVE)

█ Field Work in Colombia  
 — Home Work in Japan

Work Item	1980								1981								1982			
	Aug	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	Jun.	Jul.	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan.	Feb.	
Submission of Inception Report																				
First Field Survey			█	█	█															
Submission of Progress Report					•															
Analysis & Preparation of Interim Report					—	—	—													
Explanation of Interim Report								•												
Second Field Survey								—												
Comments on Interim Report									•											
Analysis & Preparation of Draft Final Report																				
Submission & Explanation of Draft Final Report																				
Comments on Draft Final Report																				
Submission of Final Report																				

VIII. FLOW-CHART OF WORK



付—2 Terms of Reference (西文)

TERMINOS DE REFERENCIA PRELIMINARES PARA LA  
ELABORACION DE LOS ESTUDIOS Y PROYECTOS DEL  
PARQUE SIMON BOLIVAR EN LA CIUDAD DE BOGOTA.

Elementos de juicio generales para el establecimiento de una política de ocupación del suelo, uso del espacio y reglamentación vegetal, que permita la formulación de un PROGRAMA tentativo para el diseño de un complejo espacial Vegetal- Recreacional - Educativo en la ciudad de Bogotá, sobre un área aproximada de 350 hec - táreas.

— 40 —

1- ANTECEDENTES.-

El Parque Simón Bolívar se diseñará sobre una superficie aproximada de 350 hectáreas, posiblemente la más grande ZONA VERDE CENTRAL DE RECREACION situada en un sector urbano de una ciudad Latinoamericana.

Esta zona verde se halla compuesta histórica y físicamente por dos afeas de terreno claramente definidas :

Area -A- Integrada por :

- a)- El Parque de los Novios o Parque El Lago
- b)- Club de Empleados Oficiales
- c) Parque Popular El Salitre



- d)- Unidad Deportiva El Salitre (Coldeportes)
- e)- Jardín Botánico

Area-B- De reciente adquisición, con una superficie aproximada de 110 hectáreas e integrada por :

- a)- Lote en que se halla ubicado el Templo Eucarístico
- b)- Lote que limita con la carrera 60 por el occidente : con la línea del Ferrocarril por el Oriente.

La suma de estos dos conjuntos de áreas nos permite visualizar la extensión que ocupará el PARQUE SIMON BOLIVAR, en función de los distintos componentes existentes, los que surjan de sus modificaciones, actualizaciones o erradicaciones, si fuere el caso, y de los nuevos elementos a diseñar y construir, necesarios para que el conjunto espacial en general, adquiera las características que conceptualmente se deban definir.

Como tesis central de este recinto geográfico se plantea la de que albergará en sus distintos espacios la memoria del PADRE DE LA PATRIA SIMON BOLIVAR.

## 2- ANALISIS DEL PROBLEMA.

Tomando como punto de partida el Plan Vial Distrital, la Reglamentación Urbana de las zonas aledañas y

de las áreas de influencia y el Plan Piloto de lo existente, en el cual deberán estar incluidas las diferentes ideas, programas, proyectos que se hayan manejado al respecto, se trazará una estrategia de análisis, que permita plantear criterios y directrices urbanísticas. Por otra parte se diseñará la vialidad, calculando tentativamente la circulación y el tránsito, definiendo el transporte masivo y analizando al mismo tiempo distintas alternativas de funcionamiento que permitan una operación global eficiente de las componentes en acción, la cual facilite su clasificación en función de su importancia y con base en el número de usuarios posibles y la magnitud y frecuencia de sus actividades y realizaciones.

#### SOLUCIONES.

Para definir y estructurar una posible solución del conjunto recreacional PARQUE SIMON BOLIVAR parece necesario e imprescindible contemplar las siguientes premisas sujetas todas ellas al concepto de unidad urbanística y arquitectónica que se debe establecer desde un principio.

- a)- El Proyecto debe considerar de manera simbólica el Pensamiento del Libertador Simón Bolívar en lo que se refiere a su Filosofía, sus ideas en el campo de la integración Grancolombiana y Latinoamericana y su posición política, social y económica en el ámbito del desarrollo integral de los Pueblos Americanos, vinculado sus postulados a los de las grandes corrientes del Pensamiento Contemporáneo.
- b)- Dentro del Proyecto deberá contemplarse la posibilidad de que los Países Bolivarianos participen en la realización de algunas obras que identifiquen su vinculación a esta Empresa y pongan de -

de relieve el ESPIRITU DE UNIDAD que se halla involucrado en el contexto del Pensamiento Boliviano.

- c) Se consideran fundamentales dentro de la programación del Parque Simón Bolívar, la presencia de espacios cívicos para la realización periódica de eventos nacionales e internacionales que pongan de relieve las fechas patrias, que como la del 20 de julio, constituyen hitos históricos de trascendental importancia dentro del proceso de consolidación y enriquecimiento moral y ético de la identidad nacional.
- d) El elemento simbólico o síntesis de la programación estaría representado por el Monumento al LIBERTADOR dentro del Centro Cívico Cultural Simón Bolívar que deberá tener condiciones y cualidades especiales que le permitan participar activamente dentro del Complejo Recreacional, programando sus espacios para uso de certámenes nacionales e internacionales, sede del Parlamento Andino y del Parlamento Latino Americano y como Centro de Documentación, Información y Difusión de la Filosofía Bolivariana y el Pensamiento Socio - Político-Económico contemporáneo. En este componente fundamental de la Programación deberán estar presentes los Países Bolivarianos.
- e) Destacar dentro del Conjunto el Templete Eucarístico como el Monumento Religioso más importante de la zona y uno de los elementos más significativos del Parque, no sólo desde el punto de vista histórico sino arquitectónico, complementando su uso cultural con el diseño del Museo de Arte Histórico Religioso.
- f) Estudiar para su necesario mejoramiento, racionalización, actualización y/o ampliación los siguientes elementos:

- I. Parque El Lago
- II . Parque El Salitre
- III. Unidad Deportiva (Coldeportes)
- IV. Club de Empleados Oficiales
- V. Jardín Botánico

- g) Hacer de los recintos espaciales del Parque Simón Bolívar un verdadero CENTRO EDUCATIVO donde la EDUCACION, LA RECREACION y el ENTRETENIMIENTO estén en función de la participación como atracción básica hacia objetivos Nacionales y Regionales que fortalezcan la conciencia nacional de los usuarios y eleven el nivel de sus conocimientos.
- h) Poner en evidencia a través de un proceso didáctico- espacial los conceptos sociológicos, políticos y filosóficos que han determinado la situación y presencia del Hombre Contemporáneo.
- j) Crear SIMBOLOS, HITOS Y MONUMENTOS auténticos como testimonio de nuestra nacionalidad dentro del momento histórico que nos corresponde diseñar nuevas concepciones del espacio en el campo de la Planificación Vegetal.
- k) Diseñar una topografía vegetal que sirva de lección permanente de topología a fin de que el usuario vislumbre los valores virtuales del Mundo Botánico.
- l) Ordenar los distintos componentes del Complejo Espacial- Vegetal para buscar una solución tridimensional de la circulación, el tránsito y el transporte.

En síntesis y como resumen de este planteamiento conceptual, el Parque Simón Bolívar será la verdadera Universidad de los Recursos Naturales Renovables, en donde el pueblo Colombiano y el Bolivariano, se preparen para un mundo mejor, en el cual la sociedad piense más en los valores exaltados en él y en los conceptos extraídos de su contexto integral.

4- PROYECTO

Para el proyecto general del PARQUE SIMON BOLIVAR se deberá tener en cuenta, como es apenas obvio, todo lo concerniente al desarrollo urbano de esta zona de la ciudad, el Urbanismo de las áreas en estudio y sus relaciones con el contexto correspondiente, así como todo lo relacionado con el sistema Vial Distrital que se halle afectado por la zona en estudio y la particular del Proyecto en cuestión, en lo que se refiere a circulación y tránsito, así como al transporte masivo interno (Monorriel) previsto para la movilización de los usuarios de este Complejo Recreacional y Cultural.

Se debe concebir y diseñar el PLAN MAESTRO DEL PARQUE SIMON BOLIVAR, contemplando en el mismo la armónica relación de los componentes construidos con los planteados para su diseño e incorporación al conjunto, en función de una nueva estrategia para su funcionamiento.

Este Plan Maestro incluye dentro de sus componentes, entre otros, los que a continuación se enumeran:

I- CONSTRUIDOS Y EN FUNCIONAMIENTO:

1. Parque de los Novios o Parque " El Lago "  
Servicios recreacionales

2. Club de Empleados Oficiales
  - 2.1. Sede Social
  - 2.2. Sede Deportiva
  - 2.3. Sede Cultural ( en proyecto).
3. Parque Popular El Salitre.-
  - 3.1 Juegos mecánicos
  - 3.2 Canchas Deportivas
  - 3.3.Lago
  - 3.4 Juegos Infantiles
4. Unidad Deportiva ( Coldeportes)
  - 4.1 Coliseo Cubierto
  - 4.2 Bolera
  - 4.3 Estadios de Beisbol y Atletismo
  - 4.4 Canchas de Fútbol y Tenis
  - Baloncesto
  - Tejo
  - 4.5 Gimnasios
5. Jardín Botánico
6. Templete Eucarístico

**II. POR DISEÑAR O CONSTRUIR:**

1. Complejo Cívico Cultural Simón Bolívar

1.1 Plaza Ceremonial ó de la Nacionalidad.

Área 30.000.00 M2.

1.1.1 Zona para grandes concentraciones cívicas (20 de julio, 12 de Octubre),

Desfiles Militares (7 de agosto) y Festivales Gimnásticos de la Juventud.

1.1.2 Zona para tribunas móviles, a fin de habilitar mayores espacios y dar más flexibilidad al área de la Plaza.

1.1.3 Zona para el agua: Espejos de agua, estanques, fuentes (Ballet Acústico - Monumentos al agua)

1.1.4 Monumentos a la Luna

1.1.5 Zona para las flores y las plantas

1.1.6 Monumento al sol

1.1.7 Plazoleta de los Símbolos : Pasado, Presente y Futuro

Conjunto escultórico figurativo que represente a los próceres de la conquista, Colonia, Independencia y República.

- 1.2 Centro Internacional de Convenciones
  - 1.2.1 Oficinas
  - 1.2.2 Aula Magna
  - 1.2.3 Auditorium - Salas de conferencias
  - 1.2.4 Sala de Conciertos
  - 1.2.5 Teatro
  - 1.2.6 Exposiciones
- 1.3 Biblioteca
- 1.3.1 Centro de Documentación, Información y Difusión de la Filosofía Bolivariana y el Pensamiento Socio Político - Económico contemporáneo:
  - 1.3.2 Publicaciones
  - 1.3.3 Librería
  - 1.4 Museo del Hombre Americano
- 1.5 Sede del Parlamento Andino y del Parlamento Latino - Americano



1.6 Plaza Latino Americana

1.6.1 Monumentos conmemorativos :

Batalla de Boyacá- Batalla de Carabobo-Batalla de Ayacucho-  
Batalla de Pichincha.

2. Complejo Turístico- Internacional

2.1 Hotel de 1.000 habitaciones

2.2.- Centro-Comercial

2.3.- Centro Internacional del Café

2.3.1 Cafeterías

2.3.2 Exposición y venta

2.4 Centro Bancario y Financiero

2.4.1 Central Bancaria coordinada por el Banco Cafetero con la presencia de todas las Entidades Bancarias que operen en Colombia, bajo un sistema Cooperativo de Servicios.

2.4.2 Central de Entidades Financieras Internacionales y Nacionales.

2.4.3 Oficinas de Representaciones

2.4.4 Banco de la República

- 2.4.5 Banco del Niño
- 2.5 Centro Internacional de la Esmeralda.-
  - 2.5.1 Museo
  - 2.5.2 Exposición y venta
- 2.6 Centro de Divulgación de Artesanía Colombiana.-
  - 2.6.1 Tres Salas Audiovisuales
  - 2.6.2 Espacios clasificados para exposiciones: Lana, Cerámica, Fibras Telas, Metales, Instrumentos, etc.-
- 2.6.3 Comercialización y Venta
- 2.7 Casa de los Artes de Colombia.-
- 2.8 Plaza de los Oficios y de los Menesteres.
  - 2.8.1 Monumentos a la Ciencia y a la Tecnología.
- 2.9 Plaza de los Abecedarios.-
  - 2.9.1 Monumento a la Agricultura
- 2.10 Cine Continuo - Tres Salas
  - 2.10.1 Cine Club
  - 2.10.2 Centro del Cine Experimental.

- 2.11 Museo del Mar.  
Colombia tiene costas sobre el Océano Pacífico y el Mar Caribe.-
- 3. Complejo Social Comunitario.
  - 3.1 Club Social.
    - 3.1.1 Pistas de Baile
    - 3.1.2 Cafeterías
    - 3.1.3 Restaurantes
    - 3.1.4 Lago
  - 3.2 Piscinas Recreacionales cubiertas, para niños, adultos y ancianos.
    - 3.2.1 Servicios complementarios
    - 3.2.2 Gimnasios
    - 3.2.3 Baños Turcos - Saunas
  - 3.3. Area de Recreación Infantil
  - 3.4 Jardín de los Niños.-

- 3.5 Plaza de las Germinaciones.-
- 3.5.1 Monumento a los recursos Naturales Renovables,
- 3.6 El Bosque de los Ancianos
- 3.6.1 Huerto de las plantas medicinales
- 3.6.2 Hemeroteca - Sala de Lectura y Betamax - Video Casette.
- 3.6.3 La casa de las aguas
- 3.6.4 La Plaza de las Palomas
- 3.7 Plaza de la Meternidad,-
- 3.7.1 Monumentos a la Madre
- 3.7.2 Jardín de los ciruelos
- 3.8. Club de Aeromodelismo
- 4. Complejo Administrativo,
- 4.1 Dirección General Parque " Simón Bolívar "
- 4.1.1 Gerencia, Administración, Organización y Programación

- 4.1.2. Mantenimiento, Oficinas, Depósitos y Talleres
- 4.2 Vigilancia: Cuerpo desarmado de Resguardo, Vigilancia Ecológica y Social del Parque Simón Bolívar con funciones didácticas, Personal Masculino y Femenino unificado, Cuerpo no represivo sino informativo y de orientación.
- 4.2.1. Oficinas y vivienda- Servicios- Depósitos
- 4.2.2. Estar-Lectura-Recreación
- 4.2.3. Cafeterías
- 4.2.4. Sala Audiovisual
- 4.2.5. Comunicaciones
- 4.2.6. Patio de ejercicios
- 4.2.7. Circuito Cerrado de Televisión
- 4.3. Centro de información y divulgación de las actividades del Parque Simón Bolívar, y de orientación geográfica de sus instalaciones.
- 4.3.1. Oficinas
- 4.3.2. Exposiciones

- 4.3.3. Maqueta del Gran Parque
- 4.3.4. Venta de publicaciones, guías del parque, reproducciones de Monumentos y esculturas, afiches, etc.-
- 4.4. Centro Filatélico del Parque.-
- 4.4.1. En lo que se refiere al campo de la filatelia, el Parque contará con un Centro Postal, el cual tendrá la potestad de sellar las estampillas, que por Decreto y de acuerdo a la programación que haga la Dirección del Parque, el Ministerio de Comunicaciones haya emitido con carácter exclusivo para el mismo. Estas estampillas representarán las obras de Arquitectura, Escultura y Pintura que conforman el Parque.
- 4.5. Sede de Coldeportes.-
- 4.6. Sede del Jardín Botánico
- 4.6.1. Sistemático
- 4.6.2. Páramo
- 4.7. Centro Bolivariano de Comunicación Social.-
- 4.7.1. Plaza de la Humanidad: Pasado, presente y futuro.-
- 4.7.2. Televisora Bolivariana

- 4.7.3 Radio Bolivariana
- 4.7.4. Editorial Bolivariana
- 4.7.5. Monumento a la Música
- 4.7.6. Plaza de la Poesía
- 4.7.8. Noticiero T.V. - Actividades diarias del Parque-ubicación de Pantallas gigantes.
- 5. Museo del Transporte
- 5.1 Areas de exposición : Transporte Aéreo, Transporte Marítimo Transporte Fluvial, Transporte Carretero y Ferrocarrilero.
- 5.2 Estación de Ferrocarril

Los capítulos enunciados anteriormente son una síntesis del Programa General del Parque Sirón D. I. I. V. no son necesariamente el programa definitivo y pueden ser modificados ampliándolos ó reduciéndolos - cuando las circunstancias especiales así lo indiquen.

付一3 The Findings of Survey (英文)

THE FINDINGS OF SURVEY

summarized by  
Japanese Preliminary Survey Mission  
for  
The Simon Bolivar Great Memorial Park Project

June 23, 1980

- contents -

1. INTRODUCTION
2. SUMMARY OF FINDINGS

APPEDIX

- A. MEMBER LIST OF JAPANESE PRELIMINARY SURVEY MISSION
- B. LIST OF PEOPLE CONCERNED IN BOGOTA
- C. DIGESTED SCHEDULE
- D. PROJECT AREA MAP



## 1. INTRODUCTION

The Japanese Preliminary Survey Mission for the Simon Bolivar Great Memorial Park Project, headed by Prof. Yorikazu Maruta, stayed in Bogota June 12 through 24, 1980, to exchange opinions with officials concerned and to make field investigations.

The objectives of the Mission are to grasp the background of the terms of reference and to make an agreement of the scope of work (S/W) with a Colombian authority in charge of the Project, as a preparatory work to the coming Master Plan Study.

Because the frame-work of this project, which is one of highlights presented by the Turbay administration, is enormous as well as time-consuming in completion, making a master plan, to which our technical cooperation programme is limited, is just a initiation of this project.

This paper reports the findings tentatively summarized by the Mission in Bogota. The findings will be modified in Japan by reviewing documents and materials provided by the Colombian Government and be taken over to the coming study team mainly consisting of consulting landscape architects and architects.

The mission would appreciate the kind collaborations extended by officials concerned in Bogota; among others, Dr. Julio Jose Fajardo, Dra. Maria Cristina de Luzardo, and Dr. Jose Diaz Cortes in the Ministry of Public Works and Transportation (MOPT).

## 2. SUMMARY OF FINDINGS

### 1) Background of the Project

The Simon Bolivar Great Memorial Park Project is planned to be one of bicentennial commemorations of the Liberator Simon Bolivar and to be a representation of harmony in his Latin America.

The special law No.31 of 1979 to commemorate the bicentenary of the birth of the Liberator Simon Bolivar has been already enforced as of May 17, 1979, and situates this park project as one priority highlight.

The proposed area for this project, an approximately 110 ha of area which has already been acquired in terms of the above-mentioned law and its surroundings\*, is located in the prospective

---

(\*) The question whether the surroundings adjacent to 110 ha. be included or excluded for the project area, though a master plan area referred to the S/W is restrictly limited to 110 ha., is subject to further discussion.

area of expanding Bogota urban area. Therefore, it is necessary that the Master Plan should be along with urban plans and be harmonious with the circumstances, which require close coordinations with Bogota Special District Authorities.

The project area is shown in the Appendix D.

2) Basic points to be considered in making the Master Plan

a. Character

The Simon Bolivar Great Memorial Park is expected to be a central park representative of the Colombian capital, Bogota, and to be available for every kind of citizen as well. To attain these contents, it is recommendable that existing parks and greens in the surroundings in addition to 110 ha. which is principally referred to the Master Plan in the S/W be functioned in harmony with the newly-planned park. And also, the Park is expected to be a space for recreation and sports favorable for every kind of citizen.

b. Facilities

One initiative grand plan, which is still technically untouched, has been already filed in the document prepared by the Inmuebles Nacionales of MOPT.

A memorial dome and a Cross Tower constructed about 12 years ago for the commemoration of Pope IV's courtesy visit, which is existed in the nearly center of the proposed area, is recommended to be signified and preserved properly in line with the Master Plan.

An architectural planning on the site should be carefully followed by testing soil-mechanics as well as considering the land use plan to keep harmony with their circumstances.

It is necessary that the location and design of Simon Bolivar's Statue, which has been already scheduled by the Colombian Government, should be fully coordinated with an overall plan including master plans of park.

c. Circulation

Traffic approaches to the Park should be planned, taking future transportation plans of expanding Bogota into consideration, to be made conveniently available for citizen.

Some improvements of circulating road and existing park facilities will be considered depending on overall circulation plans involving the surroundings.

d. Landscaping

Landscaping and vegetation plans appropriate to Colombian natural conditions are required. In making vegetation plans, it is inevitable to investigate vegetation conditions being researched in the Jordin Botanico adjacent to the project area as well as soil conditions within the proposed site. In addition, demand and supply analysis of vegetation in and around Bogota are also necessary.

e. Administration and maintenance (A&M)

It will be recommended in making facilities plans that some portion of A&M costs be burdened, if necessary, to the users in order to establish sound A&M systems.

It is also noted that keeping security inside of the parks is inevitable in order to let citizen enjoy pleasant recreational activities and to preserve park facilities. Security problem is esteemed to require additional financial costs.

3) Collaborations between the JICA Study Team and Colombian Counterparts

Although detailed discussions on undertakings offered each other will be clarified in the Inception Report prepared by the coming JICA Study Team, some points are suggested as followings for the preparation of Colombian side.

- a. A Colombian counterpart team working in collaboration with the JICA Study Team is recommended to be organized prior to the next team's coming. A composition will be at least; Chief, Landscape Architects, an Architect, a City Planner, a Civil Engineer and a Socio-economist\*, those who are expected to be from each agency concerned to the Project; especially the Bogota Metropolitan Government (Special District) and Colombian Institute of Youth and Sports as well as Inmuebles Nacionales of MOPT.

---

(\*) Expertize is subject to change depending on the composition of the JICA Study Team. And also, some English-speaking counterparts are expected due to awfully limited availability of Spanish-speaking Japanese experts.

- b. The Colombian Counterpart Team is expected to concentrate their works in making the Master Plan of approximately 110 ha. which the JICA Study Team is in charge.
- c. On the other hand, another architect group under the contract basis with the Colombian authorities will be set up in due time according to some Colombian's idea; those who concentrates its work on the Master Plan of approximately 250 ha. adjacent to 110 ha.
- d. Although those three task forces - JICA Study Team, Colombian Counterpart Team and Colombian Architect Group under the contract basis - will be required close coordinations, a powerful and functionable coordination among Colombian sides will be particularly requested: The JICA Study Team is expected only for Landscape Architecture, Engineering and Architecture-oriented studies and not to be involved in social, administrative and political conflicts.

Appendix A.

MEMBER LIST OF JAPANESE PRELIMINARY SURVEY MISSION  
FOR  
THE SIMON BOLIVAR GREAT PARK PROJECT

MARUTA Yorikazu	(Leader-cum-Facilities Planning)	Associate Professor in Landscape Architecture College of Horticulture University of Chiba
-		
YOKOYAMA Hiroshi	(Architectural Planning)	Head Urban Planning Div. Building Research Institute Ministry of Construction
IGARASHI Makoto	(Park Planning)	Deputy Director Parks and Greens Div. City Bureau Ministry of Construction
TOMITA Yuhji	(Infrastructural Planning)	Deputy Manager Planning & Coordination Div. Planning Department for Urban Development Japan Regional Development Corporation
KASAI Toshiyuki	(Coordination)	Project Officer Social Development Cooperation Dep't Japan International Cooperation Agency

organized by  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

Appendix B.

LIST OF PEOPLE CONCERNED IN BOGOTA  
FOR  
THE JAPANESE PRELIMINARY SURVEY MISSION

Ministry of Public Works and Transportation (MOPT)

Ex. Dr. Enrique Vargas Ramirez	Minister of MOPT
Dr. Julio Jose Fajardo	Asessor to the Minister
Dr. Aldemar Mosequera Lara	Director of Inmuebles Nacionales
Dra. Maria Cristina de Luzardo	Architect, Inmuebles Nacionales
Dr. Jose Diaz Cortes	Architect, Inmuebles Nacionales
Dr. Leopoldo Delgado Riveira	Architect, Inmuebles Nacionales

Colombian Institute of Youth and Sports

Dr. Osccar Ramos N.	Architect
Dr. Luis Lurge Confeeros Sosez	Economist

Bogota Metropolitan Government (Special District)

Dra. Marcia Wanderley de Vargas	Chief, Division of Urban Design Planning Bureau
Dra. Teresa Arango Bueno	Director of Jordin Botanico
Dr. Fransisco Sanchez	Technical Director of Jordin Botanico
Dr. Jaime Gonzalez	Staff, Jordin Botanico
Dr. Adolfo Valdivieso A.	Staff, Jordin Botanico

Department of National Planning (DNP)

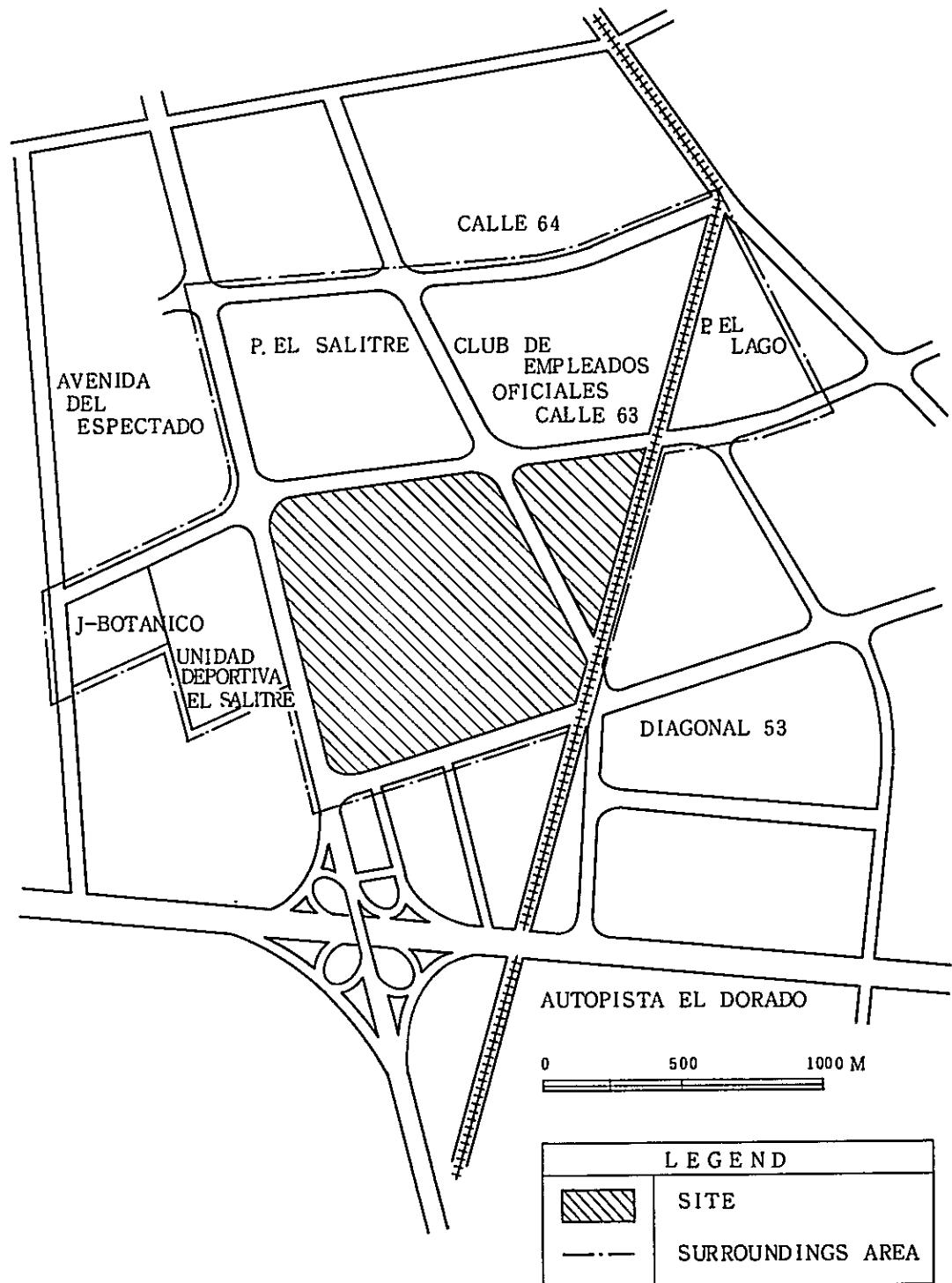
Dra. Nohra Bateman	Chief, International Technical Cooperation Division
Dra. Ligia Rodriguez	Deputy Chief, International Technical Cooperation Division
Dr. German Ospina	Chief, Transportation Div.
Dr. Javier Ramirez	Chief, Urban Study Div.

Appendix C.

DIGESTED SCHEDULE FOR  
JAPANESE PRELIMINARY SURVEY MISSION FOR  
THE SIMON BOLIBAR GREAT MEMORIAL PARK PROJECT

June 12(Thu.) Arrived in Bogota  
13(Fri.) Observation reconnaissance in Bogota  
14(Sat.) Courtesy call to the Japanese Ambassador  
15(Sun.) Observation in Bogota  
16(Mon.) 10:00-12:30 Meeting with officials concerned  
at Inmuebles Nacionales.  
14:30-15:30 ~ continued-  
16:30-17:00 Courtesy call to the Minister of MOPT  
attended by the Japanese Ambassador.  
17(Tue.) 9:00-11:30 Meeting with officials concerned at  
Inmuebles Nacionales.  
aft. Meeting at the Embassy of Japan.  
18(Wed.) mor. Briefing on Bogota urban plans by officers of  
Bogota Metropolitan Government  
aft. Field investigation (Botanico and La Florida)  
19(Thu.) mor. Meeting on data collection at Inmuebles Nacionales  
Data investigation at Dane and IGAC  
aft. Field investigation (El Independencia, El National,  
Club de Empleados and El Salitre)  
20(Fri.) 9:00-11:00 Meeting with official concerned at Inmuebles  
Nacionales on the Scope of Work (S/W)  
11:30-12:30 Meeting with officials concerned at Department  
of National Planning  
aft. Field investigation(El Tunal and El Timiza)  
Preparation of the agreeable S/W  
21(Sat.) Preparation of the Findings  
22(Sun.) Preparation of the Findings  
23(Mon.) mor. Agreement on the S/W  
Collection and confirmation of data and materials  
aft. Report to the Embassy of Japan and JICA Bogota office  
24(Tue.) Leave for TOKYO

Appendix D.







LEY Nº 31 DE 1979  
17 Mayo 1979

\*POR LA CUAL LA NACION CONMEMORA EL BICENTENARIO DEL NACIMIENTO DEL LIBERTADOR SIMON BOLIVAR, EL SESQUICENTENARIO DE SU MUERTE Y SE DICTAN OTRAS DISPOSICIONES\*

EL CONGRESO DE COLOMBIA  
DECRETA .

ARTICULO 1o. Con ocasión del Bicentenario del nacimiento del Libertador Simón Bolívar, Padre de la Patria, y del sesquicentenario de su muerte, que se cumplen el 24 de julio de 1983 y el 17 de diciembre de 1980, respectivamente, la Nación conmemora solemnemente estas fechas históricas y las declara días Cívicos.

ARTICULO 2o. El Congreso y el Gobierno de Colombia se harán representar en la ciudad de Caracas y en la ciudad de Santa Marta, en los actos que se celebrarán con motivo del Bicentenario del nacimiento del Libertador y del sesquicentenario de su muerte y dejarán testimonio de su asistencia en placas conmemorativas que se colocarán en el Panteón Nacional de Caracas y en la Quinta de San Pedro Alejandrino en Santa Marta.

ARTICULO 3o. La Academia Colombiana de Historia y la Sociedad Bolivariana de Colombia recomendarán y organizarán de común acuerdo actos solemnes y académicos alusivos a tan trascendentes efemérides en todo el territorio de la República con la participación y colaboración de las autoridades Nacionales, Departamentales y Municipales, de las Asambleas y Concejos Municipales.

ARTICULO 4o. El Gobierno Nacional editará y difundirá los libros y folletos que estime convenientes para divulgar la vida, obra, ideales del Libertador Simón Bolívar, y ordenará la reproducción de la efigie del Padre de la Patria, según el programa del maestro Ricardo Acevedo Bernal, que será distribuida y colocada en los establecimientos de educación y en las oficinas públicas.

Igualmente el Ministerio de Comunicaciones editará estampillas con la efigie del Libertador conmemorativas de las efemérides que señala esta Ley.

ARTICULO 5o. El Gobierno Nacional, por conducto del Ministerio de Obras Públicas y Transporte, y con la colaboración del Distrito Especial de Bogotá procederá a la construcción.

- a) Del Jardín Bolivariano en el área de influencia de la Quinta de Bolívar.
- b) De un Parque Popular, en la zona del Salitre, destinado a honrar la memoria del Libertador Simón Bolívar.

ARTICULO 6o. El Gobierno Nacional, por conducto del Ministerio de Obras Públicas y Transporte y con la colaboración de la Alcaldía de Bucaramanga, procederá a la renovación Urbana de la Plaza del Centro Administrativo, integrando a su conjunto el Centro Histórico donde está localizada la Casa de Bolívar.

ARTICULO 7o. El Gobierno Nacional procederá a concluir las obras que con motivo de la celebración del sesquicentenario de la Campaña Libertadora de 1819 se iniciaron en el Campo de Boyacá.

ARTICULO 8o. Declárase de utilidad pública y de interés social en el Departamento del Magdalena la zona ubicada frente al terminal marítimo de la ciudad de Barranquilla, en la cual el Gobierno financiará y construirá una ciudadela industrial que se denominará " SIMON BOLIVAR ", con el propósito de propiciar una mayor integración geográfica y económica de la Costa Atlántica.

La Empresa Puertos de Colombia construirá igualmente en dicha zona un puerto alterno al de la ciudad de Barranquilla, de acuerdo con los estudios preliminares y especificaciones técnicas establecidas por la misma Empresa.

ARTICULO 9o. En desarrollo de lo establecido en el artículo anterior el Gobierno Nacional adquirirá en ese sector del Departamento del Magdalena cien (100) hectáreas de terreno, dentro de las cuales se construirá el puerto alterno y la

ciudadela industrial, decretando, si fuere necesario, la expropiación e indemnización de los predios que fueren indispensables.

ARTICULO 10o. El Ministerio de Obras Públicas y Transporte hará los estudios y financiará la construcción de una Avenida paralela al Río Manzanares entre la ciudad de Santa Marta y la Quinta de San Pedro Alejandrino, que se denominará Simón Bolívar, y para tales efectos declarará de utilidad pública o de interés social los predios de propiedad privada comprendidos dentro de dicho sector.

ARTICULO 11o. El Gobierno Nacional se hará cargo de la conservación, remodelación y administración de la Quinta de San Pedro Alejandrino y de la restauración de la Catedral Basílica de Santa Marta.

ARTICULO 12o. Autorízase al Gobierno Nacional para adquirir, restaurar y conservar las casas donde habitó el Libertador que, a juicio de la Academia Colombiana de Historia, conserven el aspecto que tenían en su época.

ARTICULO 13o. Auxiliase a la Sociedad Bolivariana del Magdalena con una suma no menor de dos millones de pesos para la compra de un lote de terreno y la construcción de un edificio que le sirva de sede y a la sociedad Bolivariana de Colombia con una suma no menor de dos millones de pesos (\$2'000,000) para la organización y celebración del Congreso Internacional de Sociedades Bolivarianas que se verificará con ocasión del Sesquicentenario de la muerte del Libertador.

ARTICULO 14o. Autorízase por una sola vez, a la Lotería del Libertador de la ciudad de Santa Marta, para que organice un sorteo Extraordinario en la fecha de la conmemoración de la muerte del Libertador Simón Bolívar. La utilidad que se obtenga de este sorteo será destinada a la terminación y dotación del Hospital Central de Santa Marta.

ARTICULO 15o. El Gobierno Nacional incluirá en cada presupuesto anual una suma de CINCO MILLONES (\$5'000,000.) pesos, la cual se incrementará en cada vigencia en un veinte por ciento (20%) para atender la educación y el funcionamiento del Instituto de Estudios para el Desarrollo y la Integración de América Latina y de la Editorial Bolivariana Internacional, con sede en Tunja.

F A R A G R A F O 1o. Destinase la suma de DOS MILLONES DE PESOS (\$2'000,000.) para acrecer el Fondo Rotatorio de Publicaciones de la Academia Mariñense de Historia, suma que podrá dicha Academia destinar, parcial o totalmente, a la adquisición de maquinaria para efectuar directamente sus publicaciones.

F A R A G R A F O 2o. Estas entidades fomentarán especialmente la divulgación del pensamiento y las doctrinas del Libertador Simón Bolívar.

ARTICULO 16o. El Gobierno Nacional, por conducto del Ministerio de Obras Públicas y Transporte procederá a

- a) Pavimentar la Carretera de Circunvalación al Volcán Galeras, ruta seguida por el Ejército Libertador cuando la Batalla de Bomboná, en el trayecto comprendido entre la Carretera Panamericana, a partir del punto El Tambor o el Cebadal, hasta Pasto.
- b) Pavimentar las calles de la " Ciudadela Bomboná y su acceso desde la Carretera de Circunvalación,
- c) Construir el Parque proyectado por el Ministerio de Obras Públicas en el Campo de Bomboná.
- d) Construir la " Escuela Artesanal Simón Bolívar"

que funcionará en la ciudad de Pasto en coordinación con el Ministerio de Educación Nacional.

Para la realización de esta Obra se incluirán en el presupuesto Nacional partidas anuales no inferiores a DIEZ MILLONES DE PESOS (\$10'000,000) y, una vez concluida su construcción y dotación, el Ministerio de Educación Nacional atenderá su sostenimiento.

ARTICULO 17o. El Gobierno Nacional iniciará y adelantará las obras a que se refiere la presente Ley con claridad que haga posible su terminación antes de la fecha en que se celebrarán las efemérides a que se refiere esta Ley o que permita su importante adelanto. Para tal efecto autorízase al Gobierno Nacional para contratar empréstitos, abrir los créditos y hacer los traslados presupuestales necesarios para dar cumplimiento a la presente Ley.

ARTICULO 18o. El Gobierno Nacional, por conducto del Ministerio de Obras Públicas y Transporte, y con la colaboración de la Academia Colombiana de Historia y de las Sociedades Bolivarianas procederá a colocar placas o hitos conmemorativos de los sitios visitados por el Libertador.

ARTICULO 19o. Declárase de utilidad pública e interés social la adquisición de las zonas de terreno a que se refieren los artículos anteriores.

ARTICULO 20o. Autorízase el Gobierno Nacional para contratar empréstitos, abrir los créditos y hacer los traslados presupuestales para dar cumplimiento a la presente Ley.

ARTICULO 21o. Esta Ley rige desde su sanción.

Dada en Bogotá, D.F. a 31 de mayo de mil novecientos setenta y nueve.

EL PRESIDENTE DEL HONORABLE SENADO DE LA REPUBLICA

JAIMI PAVA NAVARRO

EL PRESIDENTE DE LA HONORABLE CAMARA DE REPRESENTANTES

JOPPE MARIO EASTMAN

EL SECRETARIO GENERAL DEL H. SENADO DE LA REPUBLICA

AMAUPE CUERRERO

EL SECRETARIO GENERAL DE LA H. CAMARA DE REPRESENTANTES

JAIRO MORERA LISCAÑO

REPUBLICA DE COLOMBIA - GOBIERNO NACIONAL

BOGOTA, D.F. 17 MAYO DE 1979

PUBLICUESL Y EJECUTESE

JULIO CESAR TUPEY AYALA

EL MINISTRO DE JUSTICIA

HUGO ESCOBAR SIERRA

EL MINISTRO DE HACIENDA Y CREDITO PUBLICO

JAIPE GARCIA PARRA

EL MINISTRO DE EDUCACION NACIONAL

RODRIGO LLOPEZA CAICEDO

EL MINISTRO DE COMUNICACIONES

JOSE MANUEL AFIAC CARRIOSA

EL MINISTRO DE OBRAS PUBLICAS Y TRANSPORTE

EMPIQUE VARGAS RAMIREZ



付一5 収集資料リスト

収 集 資 料 リ ス ト

(一般資料)

- 1 COLOMBIA
- 2 COLOMBIA, HOY
- 3 BOLIVAR, Indalecio Liévano Aguirre
- 4 The Ancient Sun Kingdoms of the Americas
- 5 Economía Colombiana
- 6 guia dorada de BOGOTA

(公園関係)

- 1 PARQUE SIMON BOLIVAR
- 2 Jardin Botánico de Bogotá " José Celestino Mutis "
- 3 ARBORIZACIONES URBANAS
- 4 INFORME SOBRE PARQUES
- 5 INFORME PARQUES I.D.R.D.1980
- 6 PARQUE EL SALITRE
- 7 CLUB DE EMPLEADOS OFICIALES BOGOTA  
ESTUDIO DE SUELOS
- 8 ALGUNOS ASPECTOS IMPORTANTES PARA LA CREACION  
DEL BOSQUE EN EL SALITRE
- 9 ALGUNAS ESPECIES DEL BOSQUE ANDINO Y OTRAS  
EXOTICAS CONNATURALIZADAS EN NUESTRO MEDIO
- 10 ESCALA 58 ARQUITECTURA PAISAJISTA
- 11 INVENTARIO DE LAS INSTALACIONES EXISTENTES  
EN EL AREA DEL SALITRE
- 12 JARDIN BOTANICO " JOSE CELESTINOMUTIS ", BOGOTA
- 13 club de empleados oficiales

(都市計画関係)

- 1 PLAN DE ESTRUCTURA PARA BOGOTA
- 2 THE FUTURE OF BOGOTA
- 3 NUEVOS CENTROS URBANOS PARA BOGOTÁ
- 4 APENDICE 2: ANALISIS DE TRANSPORTE
- 5 APENDICE 3: ANALISIS FINANCIERO
- 6 APENDICE 4: ANALISIS ECONOMICO Y ESTUDIOS FACTIBILIDAD
- 7 APENDICE 5: PROCEDIMIENTOS DE IMPLEMENTACION
- 8 BOGOTA URBAN DEVELOPMENT STUDY APPENDIX:1  
PHYSICAL PLAMUING BASES
- 9 APPENDIX 2: TRANSPORT ANALYSES
- 10 BOGOTA, DISTRITO ESPECIAL-ALCALDIAS MENORES
- 11 ALCALDIA MAYOR DE BOGOTA D.E. ZONA ORIENTAL  
ANUARIO ESTADISTICO DE BOGOTA, 1972-1974
- 12 PRIMERA PARTE
- 13 SEGUNDA "
- 14 TERCERA "
- MONOGRAFIA DEL MUNICIPIO DE BOGOTA
- 15 PRIMERA PARTE
- 16 SEGUNDA "
- 17 TERCERA "
- 18 APTITUD DE USO DE LOS SUELOS DE LA SABANA DE BOGOTA Y SUS  
ALREDEDORES
- 19 DECRETO NUMERO 444
- 20 ACUERDO 7 DE 1979
- 21 DECRETOS 3207 DEL 26 DE DICTEMBRE DE 1979  
248 DEL 8 DE FEBRERO DE 1980  
0622 DEL 13 DE MARZO DE 1977
- 22 POBLACION DE BOGOTA 1979
- 23 ANUARIO 1975 PRIMERA PARTE
- 24 " SEGVNDA "

(図面関係)

- 1 ACUERDO DE ZONIFICACION 1985 1/25,000
- 2 SISTEMA VIAL ARTERIAL PLAN VIAL Y CLASIFICACION DE VIAS  
1/25,000
- 3 ALCALDIAS MENORES
- 4 BOGOTA 1979 1/25,000
- 5 BOGOTA 1979 1/10,000
- 6 無名 ボゴタ市図面
- 7 PARQUE DE LA INDEPENDENCIA 1/1,000
- 8 UNIDAD DEPORTIVA " EL SALITRE " 1/1,000
- 9 JARDIN BOTANICO " JOSE CELESTINO MUTIS " 1/500
- 10 PARQUE " SALITRE " 1/2,000
- 11 PARQUE NATIONAL 白図
- 12 PARQUE DE LA INDEPENDENCIA 1/500
- 13 PARQUE DEL AMOR Y LA AMISTAD 1/1,000
- 14 PARQUE NACIONAL 1/2,000
- 15 CUADRO DE AREAS 1/1,000
- 16 FUTURO PARQUE POPULAR " SIMON BOLIVAR " 1/5,000
- 17 PLANO DE BOGOTA 1/10,000
- 18 FUTURO PARQUE POPULAR " SIMON BOLIVAR " 1/10,000
- 19 PLANO DE BOGOTA 1973 1/5,000

JICA